三重県埋蔵文化財調査報告 146－1－2

―三重県松阪市櫛田町所在―

櫛田地区内遺跡群発掘調査報告Ⅱ

奥ノ垣内地区

1997.3

三重県埋蔵文化財センター

例　言

1．本書は、下記の遺跡の発掘調査報告書である。
　櫛田地区内遺跡群　　奥ノ垣内地区　　三重県松阪市櫛田町字奥ノ垣内
2．調査は、平成８年度農業基盤整備事業に係わる文化財発掘調査書の第１分冊－２である。前言、位置と環境については、第１分冊－１に掲載されているので、そちらを参照されたい。
3．調査は次の体制で行った。
　調査主体　　三重県教育委員会
　調査担当　　三重県埋蔵文化財センター　調査第一課
　　係長　　前川　嘉宏
　　技師　　日栄　智子
　　主事　　佐藤　　公
　整理担当　　調査第一課・管理指導課
4．調査にあたっては、三重県農林水産部農地整備課、松阪農林事務所、櫛田土地改良区および地元の方々、松阪市教育委員会に御協力をいただいた。
5．報文執筆は日栄が行い、遺物写真撮影は田中久生が行い、遺構写真は日栄および佐藤が行なった。
6．挿図の方位は、全て真北で示している。なお、磁針方位は西偏６°40′（平成６年）である。
7．本書で用いた遺構表示略記号は、下記による。
　ＳＢ：掘立柱建物　ＳＥ：井戸　ＳＫ：土坑　ＳＤ：溝
8．出土遺物や資料は、全て三重県埋蔵文化財センターで保管している。

9.　スキャニングによるデーター取り込みのため若干のひずみが生じています。各図の縮尺率は、スケールバーを参照ください。

本文目次

Ⅴ．奥ノ垣内地区 ……1
1．層位と遺構 ……2
2．遺物 ……15
3．結語 ……36

挿図目次

第1図　調査区南壁土層断面図 ……4
第2図　調査区平面図 ……5～6
第3図　調査区主要遺構変遷図 ……7
第4図　ＳＥ44・76実測図 ……8
第5図　ＳＤ87木製品出土状況図 ……9
第6図　ＳＢ93・94平面図・断面図 ……10
第7図　ＳＥ12実測図 ……11
第8図　ＳＤ69木製品出土状況図 ……12
第9図　ＳＥ71実測図 ……13
第10図　ＳＫ54・86出土遺物実測図 ……14
第11図　ＳＫ86出土遺物実測図 ……15
第12図　ＳＤ２出土遺物実測図 ……17
第13図　ＳＫ34・11・65・ＳＤ90・ＳＥ76出土遺物実測図 ……18
第14図　ＳＥ12出土遺物実測図 ……19
第15図　ＳＥ12・ＳＫ17・37出土遺物実測図 ……21
第16図　ＳＤ27・83・89・ＳＫ33・39・45・88出土遺物実測図 ……22
第17図　ＳＤ69・46・84・ＳＫ19・50・55出土遺物実測図 ……24
第18図　ＳＫ48出土遺物実測図 ……25
第19図　ＳＫ41～43・63出土遺物実測図 ……26
第20図　ＳＫ41・49・72・73・75・Ｐｉｔ・包含層出土遺物実測図 ……27
第21図　出土木製品実測図 ……28
第22図　出土瓦実測・拓本図 ……29

表目次

第1表　出土遺物観察表（1） ……31
第2表　出土遺物観察表（2） ……32
第3表　出土遺物観察表（3） ……33
第4表　出土遺物観察表（4） ……34
第5表　出土遺物観察表（5） ……35

図版目次

図版1　東西方向調査区全景 ……37
　　東西方向調査区全景 ……37
図版2　ＳＤ２ ……38
　　南北方向調査区 ……38
図版3　南北方向調査区 ……39
　　ＳＥ12 ……39
図版4　ＳＥ44 ……40
　　ＳＥ71 ……40
図版5　ＳＥ76 ……41
　　ＳＤ69 ……41
図版6　ＳＤ83 ……42
　　ＳＫ42土器出土状況 ……42
図版7　ＳＫ73 ……43
　　ＳＫ86下駄出土状況 ……43
図版8　出土遺物写真 ……44
図版9　出土遺物写真 ……45
図版10　出土遺物写真 ……46
図版11　出土遺物写真 ……47
図版12　出土遺物写真 ……48

V. 奥ノ垣内地区

奥ノ垣内地区は、櫛田集落の西方の水田地帯に広がり、池ノ端地区の西側に位置する。今回、ほ場整備に伴って約1,600㎡の調査を行った。調査区は、排水路および水田の掘削に伴う東西方向（以下、東西調査区）とそれに直行する排水路と舗装農道に伴う南北方向（以下、南北調査区）を併せたＴ字部分である。調査期間は平成８年11月14日から平成９年１月17日である。

調査日誌（抄）

11．14　南北調査区の表土掘削。

11．15　南北調査区の表土掘削および地区杭設定。

11．21　現場作業開始。15列まで検出。ＳＤ１～５掘削。ＳＤ２にトレンチ掘削。

11．22　27列まで検出。ＳＤ６・ＳＫ７・８掘削ＳＤ２掘削

11．25　30列まで検出。ＳＤ９・10、ＳＫ11・12、ＳＤ13･14掘削。その他Ｐｉｔ掘削。

11．26　ＳＫ15～20掘削。ＳＤ２、重機により掘削。溝底と肩のみ人力で掘削。

11．28　東西調査区の表土掘削および検出。ＳＤ２南北方向に屈曲する部分、重機により掘削。溝底のみ人力で掘削。ＳＥ12掘削。

12．２　東西調査区地区杭設定および検出。南北調査区の実測のための基準点設定。ＳＥ12実測の設定。

12．９　南北調査区、清掃後、全景写真撮影。ＳＤ２土層断面の写真撮影。ＳＤ32･ＳＫ33･34掘削。

12．10　ＳＥ12断割。ｄ列以南、表土掘削。ＳＫ35・37・ＳＫ41・48・49掘削。

12．12　ＳＫ17･54～58･ＳＤ46掘削。その他Ｐｉｔ掘削。

12．16　ＳＫ68、ＳＤ69掘削。

12．18　ＳＫ73･79･80、ＳＤ77･78、ＳＥ76その他Ｐｉｔ掘削。

12．19　ＳＤ69･83、ＳＥ78掘削。

12．24　ＳＤ69木製品出土状況実測、ＳＥ44立面実測、ＳＥ76平面実測。

12．25　ＳＤ61、ＳＫ86･88掘削。東西調査区、全景写真撮影のため清掃。

12．26　ＳＫ86･88掘削。

１．６　東西調査区の南端部拡張のための表土除去。東西調査区遺構平面実測、およびレベル計測。

１．７　ＳＫ86･88、ＳＤ89掘削。

１．８　ＳＫ86･88、ＳＥ71掘削。ＳＫ86から下駄出土。

１．９　ＳＫ88、ＳＥ71掘削。

１．10　ＳＤ69、ＳＥ76土層断面実測。東西調査区の遺構平面実測およびレベル計測。

１．13　ＳＤ83木製品出土状況実測。ＳＥ76立面実測。東西調査区遺構平面実測。

１．14　東西調査区遺構平面実測。およびレベル計測。ＳＥ76土層断面実測。ＳＥ71平面実測。ＳＫ80杭列実測、立割り、レベル計測。

１．16　ＳＥ71井戸枠取り上げ。

１．17　道具、プレハブ、トイレ等撤去。現地での作業終了。

1．層位と遺構

（1）基本的層序

当遺跡の東西調査区の基本的な層位は、第1層：耕作土、第2層：淡黄灰色粘質シルト（遺物包含層）第3層：黄褐色粘質シルト（地山）で、遺構検出は第3層上面で行った。しかし調査区の中央部約32mの部分に関しては、鉄分沈殿層の下に暗黄灰色粘質シルト、暗褐灰色粘土の堆積がみられた。また、調調査区両端部では、耕作土直下で遺構検出面に達した。そして、南北調査区に関しても、耕作土直下を遺構検出面とした。

（2）遺構

奥ノ垣内地区では、溝、井戸、土坑、掘立柱建物等の遺構が確認された。遺構の時期は、大きく飛鳥・奈良時代、戦国時代～江戸時代初頭、江戸時代初頭～中葉、江戸時代中葉～後葉の4時期に分けられる。

以下、時期別に、主な遺構の概略を述べる。

a．飛鳥・奈良時代の遺構

土坑

ＳＫ86

南北調査区南端で確認された。人工的というよりは東側から自然に落ち込む地形が沼状に堆積した部分ではないかと思われる。南北方向の最大長は7.2m東西方向は調査区までの延長は5.4mの方形に近い楕円形で、擂鉢状に落ち込んでいる最深部は約2mに及ぶ。埋土は、淡灰黄色粘土で、底部付近には暗青灰色粘土が木片と共に堆積していた。遺物は、6世紀後半～8世紀頃の須恵器の杯身（2～4）、杯蓋（5～11）、瑞（12～15）、甕（17・18）、土師器の高杯（32～35）、甕（37～41）、杯、皿（19～31）、土錘（42～47）等が出土した。また、底付近からは、完形の甕が2個体、（38・39）口縁部を下にした状態で出土し、その周辺では、下駄（48）、椀等の木製品が見つかった。

ＳＫ54

南北調査区で検出された、直径約1mの楕円形の土坑である。須恵器甕、土師器甕とともに須恵器の杯身1点のみ（1）ほぼ完形で出土した。時期はＳＤ9・10と同じくらいであろう。

溝

ＳＤ9

東西調査区中央より東側で検出された。調査区の南北を走る溝で、幅0.8m、深さは0.45mで、断面は箱型である。7世紀初め頃の須恵器の杯身、甕等が出土している。

ＳＤ10

東西調査区、ＳＤ2の東側で検出された。ＳＤ9同様調査区の南北をやや蛇行する溝で、幅1.25m、深さ0.6mで断面は箱型である。時期はＳＤ9同様7世紀初め頃と思われる。遺物は須恵器の甕、杯蓋などが出土している。

b．戦国時代～江戸時代初頭の遺構

井戸

ＳＥ44

南北調査区中央からやや北寄りで検出された。掘形は長径2.7m、短径2.5mの円形に近い楕円形で、検出面からの深さは2.8mである。井戸本体は、掘形の中心よりはかなり北に寄っている。10～30cmの石がほぼ円形に積まれており、中段部はやや膨らみ気味に積まれているようである。石組みの下には、下枠として、厚さ2cm、直径34cm、高さ32cmの桶が据えられていた。石組みと桶の間から、曲物の底板（312）や釣瓶が欠損したと思われる木製品が出土している。

その他の出土遺物としては、土師器の皿（108～110）や鍋（111・114・115）、瀬戸美濃窯陶器の志野皿（106・113）や天目茶椀（113）が出土している。

ＳＥ76

南北調査区ほぼ中央ＳＥ71の西で検出された。掘形は長径2.9m、短径2.4mの楕円形で、検出面からの深さは2.6mである。井戸本体は、掘形の中央よりはやや西寄りに位置している。上部から石組みが残っており、10～30cmの石がほぼ円形に積まれていた。底部は石組みの下に直径7cm、長さ70cmの丸木を正方形に一段組み、下枠として厚さ4cm、高さ30cm、内径30cm、外径50cmで底部のない鉢状のくり物が据えられていた。材質はトチノキである。遺物

は土師器の鍋、皿（74）、青磁片（72・73）等が出土している。

ＳＫ11

南北調査区で検出された、長径6.0m、短径3.9mの長方形の土坑である。埋土は灰褐色粘質土の下に青灰色粘土が堆積しており、全体的に埋土中には鉄分班が多く混入していた。青灰色粘土の層はピット状に窪み、その部分で検出面からの深さは0.75mである。遺物は土師器の皿、鍋、瀬戸・美濃窯陶器の水注（70）等が出土しているが、廃棄土坑というには、遺物の量は少なかったといえる。

ＳＫ34

東西調査区から検出された、一辺約1.6mで検出面からの深さは0.1mのほぼ正方形の土坑である。遺物は常滑窯陶器の他、土師器の皿（68・69）、鍋が出土している。

ＳＫ68

南北調査区で検出された。ＳＥ71に切られる。東端は調査区外に至るため延長は不明だが、残存長径3.8m、短径1.8m、検出面からの深さは、0.4mである。常滑窯陶器の甕、土師器鍋の他、瓦も若干出土している。

溝

ＳＤ２

東西調査区でコの字形に検出された。調査区西端で直交する部分の幅は5.3m、検出面からの深さは1.6m、東端部分の幅は4.6m、深さは1.5mで、断面は共にＶ字形である。区画内の長さは120mを測る。調査区に平行する部分の北側の肩は調査区外に至るため確認できなかった。方向は直交する部分がN11°E、平行する部分がN78°Wである。埋土は大きく第１層明淡黄灰色粘質シルト、第２層暗褐灰色粘土、第３層灰色粘土、第４層暗青灰色粘土の順に分かれる。

遺物は西端部分および平行部分からはほとんど出土しなかったが、東端部分の第４層からは、木片、木の葉、植物の種子等とともに瀬戸・美濃窯陶器の皿（48）天目茶椀（49～51）、擂鉢（52・53）や土師器の皿（54～56）、鍋（57～67）がまとまって出土した。

ＳＤ77

東西調査区から検出された東西溝である。東端部で南へやや屈曲する。最大幅は1.5mで、溝底は0.2～0.4m程で、この屈曲部付近から西へ向かって傾斜している。遺物は瀬戸・美濃窯陶器の鉄釉徳利、灰釉皿等が出土している。

ＳＤ87

東西調査区から検出された東西溝である。最大幅は2.1mで北側に0.6～0.7mのテラス部を持つ。方向はN57°Wである。溝底は、0.25～0.3mで中央部が若干低くなっている。遺物は土師器鍋、皿の細片の他は、古瀬戸後期様式の盤類の破片が出土したのみであった。

ＳＤ90

南北調査区南端で検出された、南北溝で、北側はＳＤ89に切られ、南側および西側は調査区外に至るため全体像は不明である。遺物は、土師器の鍋（101～106）、皿（78～100）が大量に一括投棄された様な状態で出土した。土師器以外の遺物はほとんどみられなかった。

ｃ．江戸時代初頭～中葉の遺構

掘立柱建物

ＳＢ93

南北調査区で検出された。２間×３間の東西棟で棟方向はN63°Wである。桁行きは5.2m、梁行きは4.2mで、柱間は桁行きが1.5～1.9m、梁行きが2.1～2.4mと不揃いである。遺物は土師器、瓦、瀬戸・美濃窯陶器の皿、擂鉢等が出土している。

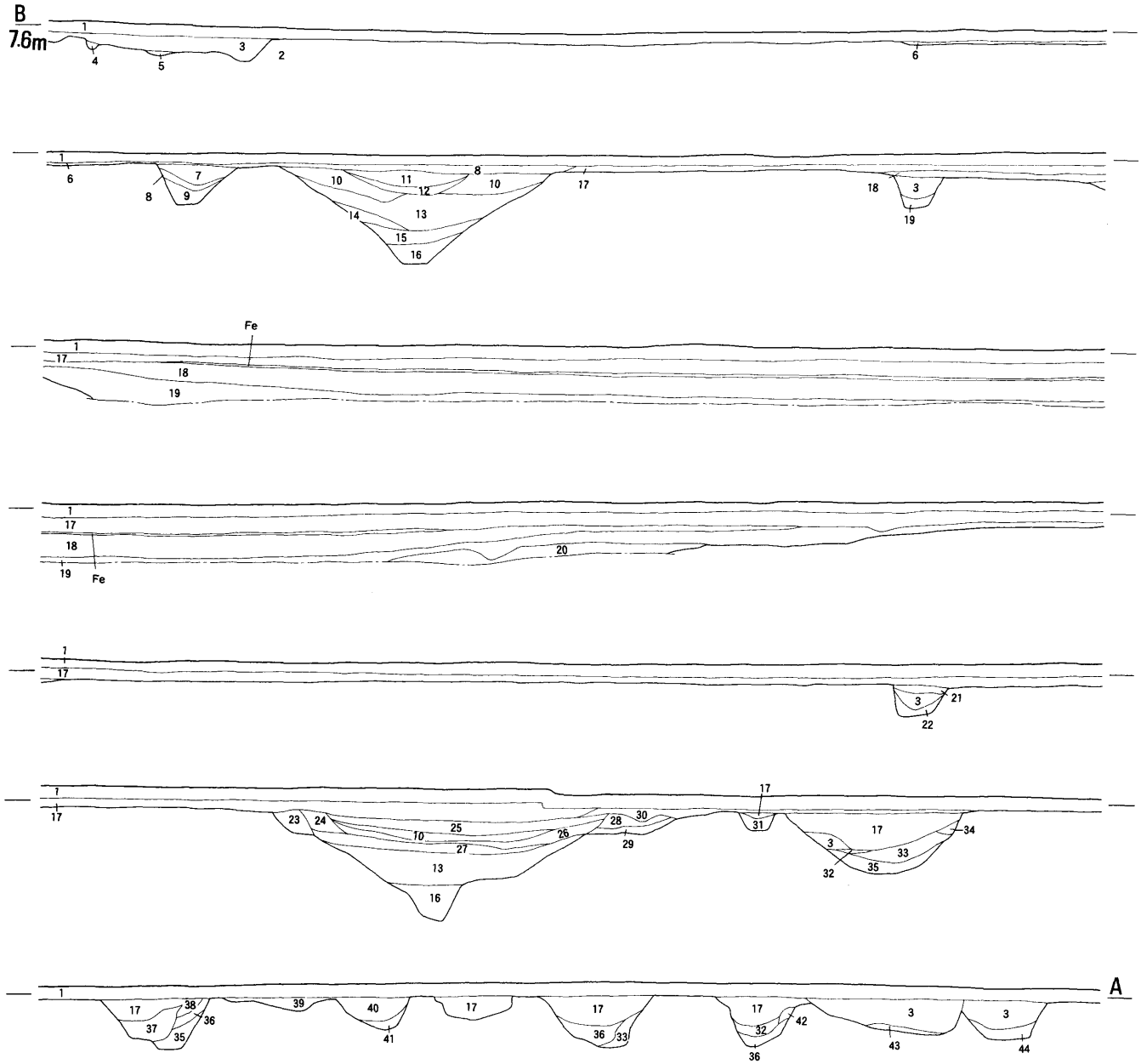
ＳＢ94

南北調査区で検出された。２間×２間の建物で、柱筋はN63°Wの方向に向き、桁行きは4.2m、梁行きは3.8mで、柱間は桁行きが2.0・2.2m、梁行きが1.7・2.1mと不揃いである。遺物は土師器片が出土しているのみだが、ＳＢ93と方向が同じであることから同時期とした。

井戸

ＳＥ12

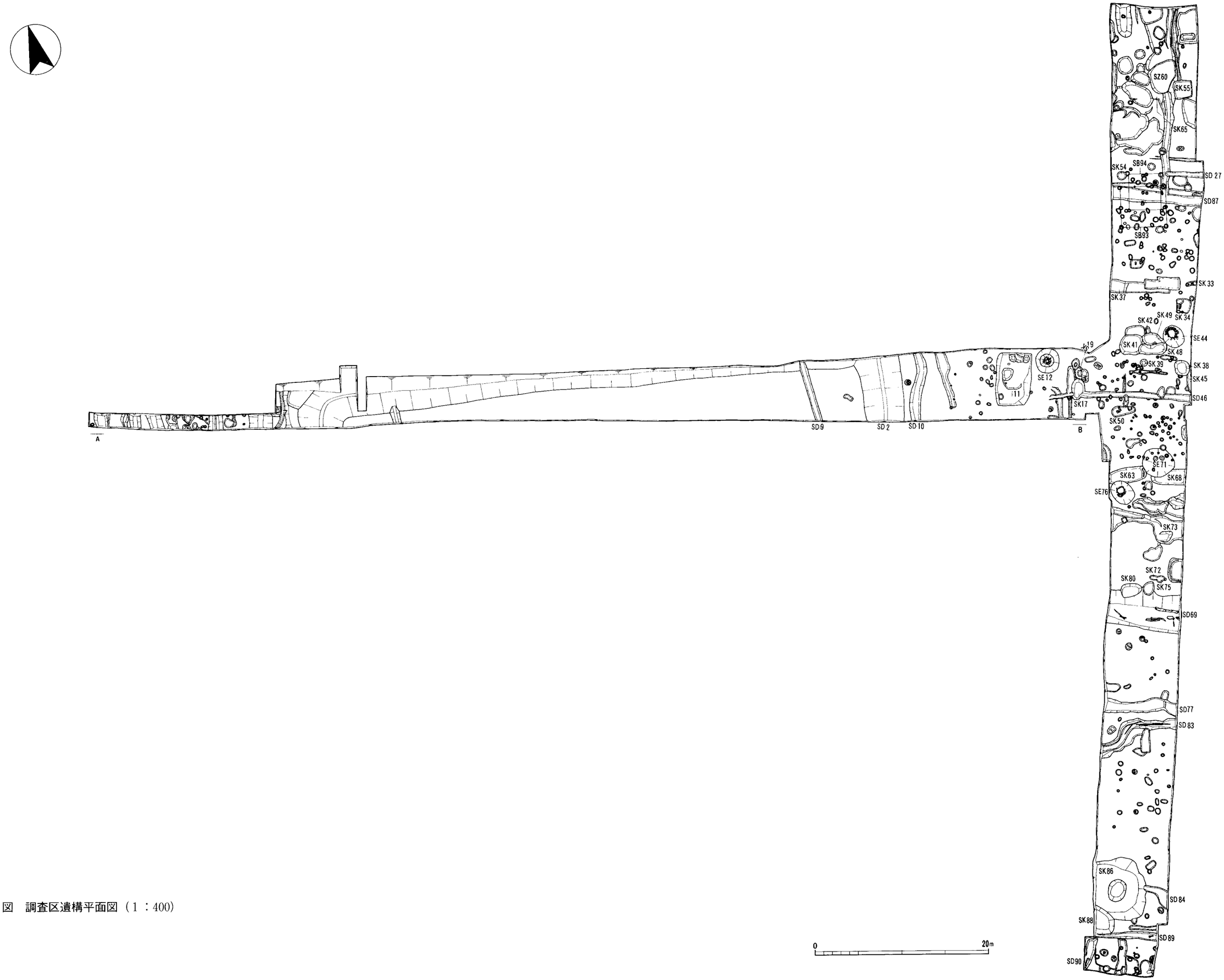
東西調査区東端で検出された。掘形は直径2.7mのほぼ円形で、検出面からの深さは2.8mである。井戸本体は掘形のほぼ中央に位置している。10～20㎝の石が円形に底から３段程積まれ、その下に井戸の下枠として、厚さ３㎝、高さ30㎝の筒状のくり物が据えられていた。井戸内には石組みに使用されて



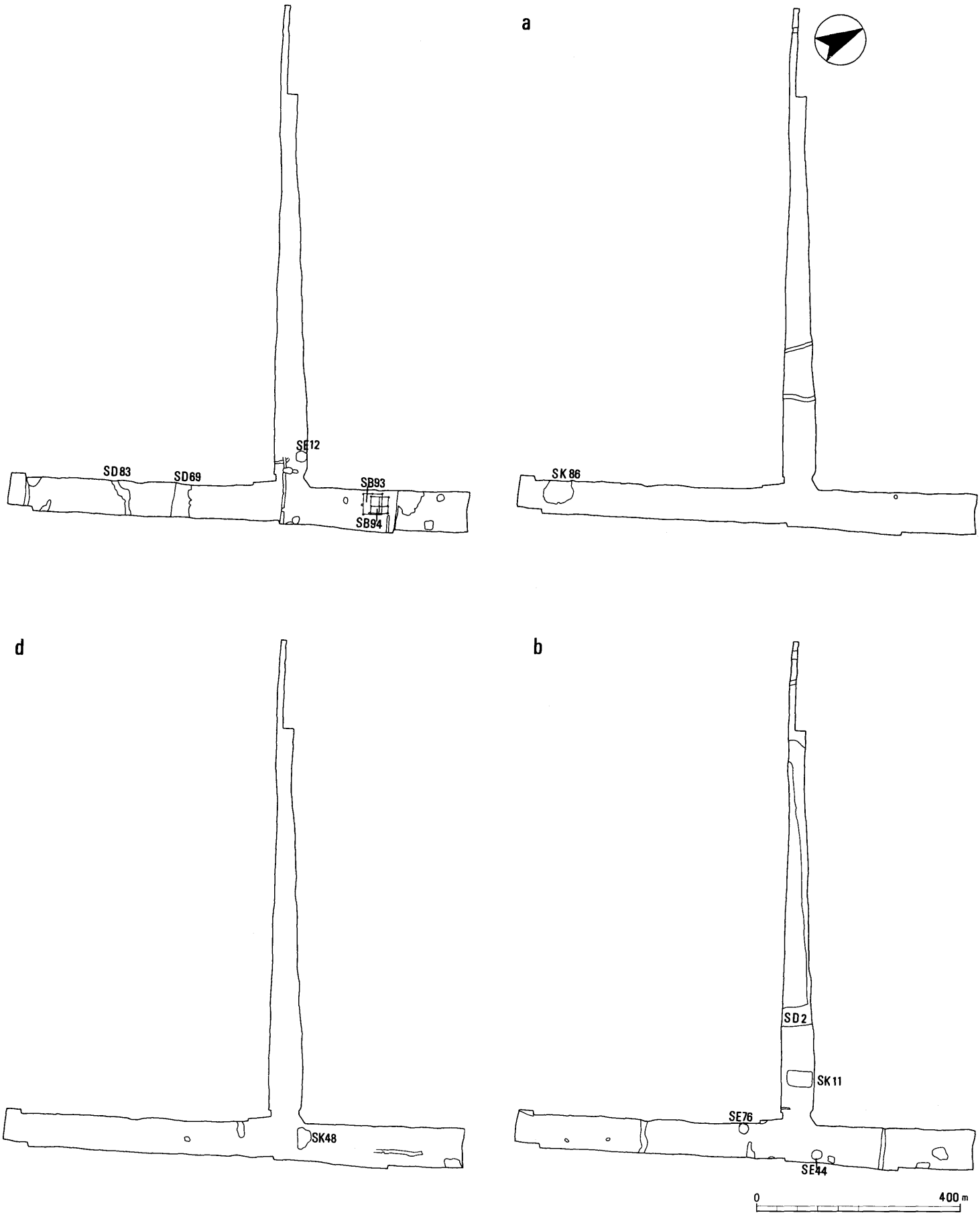
1 暗褐灰色土(耕作土)
2 黄褐色粘質シルト(地山)
3 暗褐灰色粘質シルト
4 極暗褐灰色粘質シルト(ＳＤ13埋土)
5 極暗褐灰色粘質シルト(ＳＤ16埋土)
6 暗灰色シルト
7 地山崩壊土(ＳＤ10埋土)
8 淡灰色粘土(〃)
9 地山崩壊土と淡灰色粘土の互層(〃)
10 暗褐灰色粘土(ＳＤ２埋土)
11 極暗褐灰色粘土(〃)
12 灰色シルト(〃)
13 灰色粘土(〃)
14 暗灰色粘土(〃)
15 灰色砂質シルト(〃)
16 暗灰色砂質シルト(〃)
17 淡黄灰色粘質シルト
18 暗黄灰色粘質シルト
19 暗灰褐色砂質シルト
20 極暗褐灰色粘土
21 暗黄褐色粘質シルト(遺構埋土)
22 ３＋地山ブロック(〃)
23 黄灰色粘質シルト
24 やや淡い黄灰色粘質シルト
25 明黄灰色粘質シルト
26 暗褐色粘質シルト
27 褐色粘質シルトと25の互層
28 暗褐色粘質土
29 暗灰褐色砂質シルト
30 17＋黄褐灰色土ブロック
31 やや淡い黄灰色粘質シルト
32 灰褐色細砂質シルト(ＳＤ６埋土)
33 暗褐色粘質シルト(〃)
34 地山ブロック(〃)
35 暗灰褐色細砂(〃)
36 暗灰褐色細砂質シルト
37 17＋Ｆｅ
38 暗灰褐色砂(遺構埋土)
39 17＋暗褐灰色土ブロック(遺構埋土)
40 17＋黄褐色粘質土ブロック(ＳＫ８埋土)
41 暗灰色粘質土(〃)
42 暗褐色砂質シルト(ＳＤ１埋土)
43 ３＋暗褐灰色土ブロック(ＳＤ４埋土)
44 17＋黄褐色粘質土ブロック(ＳＤ５埋土)

0 4m

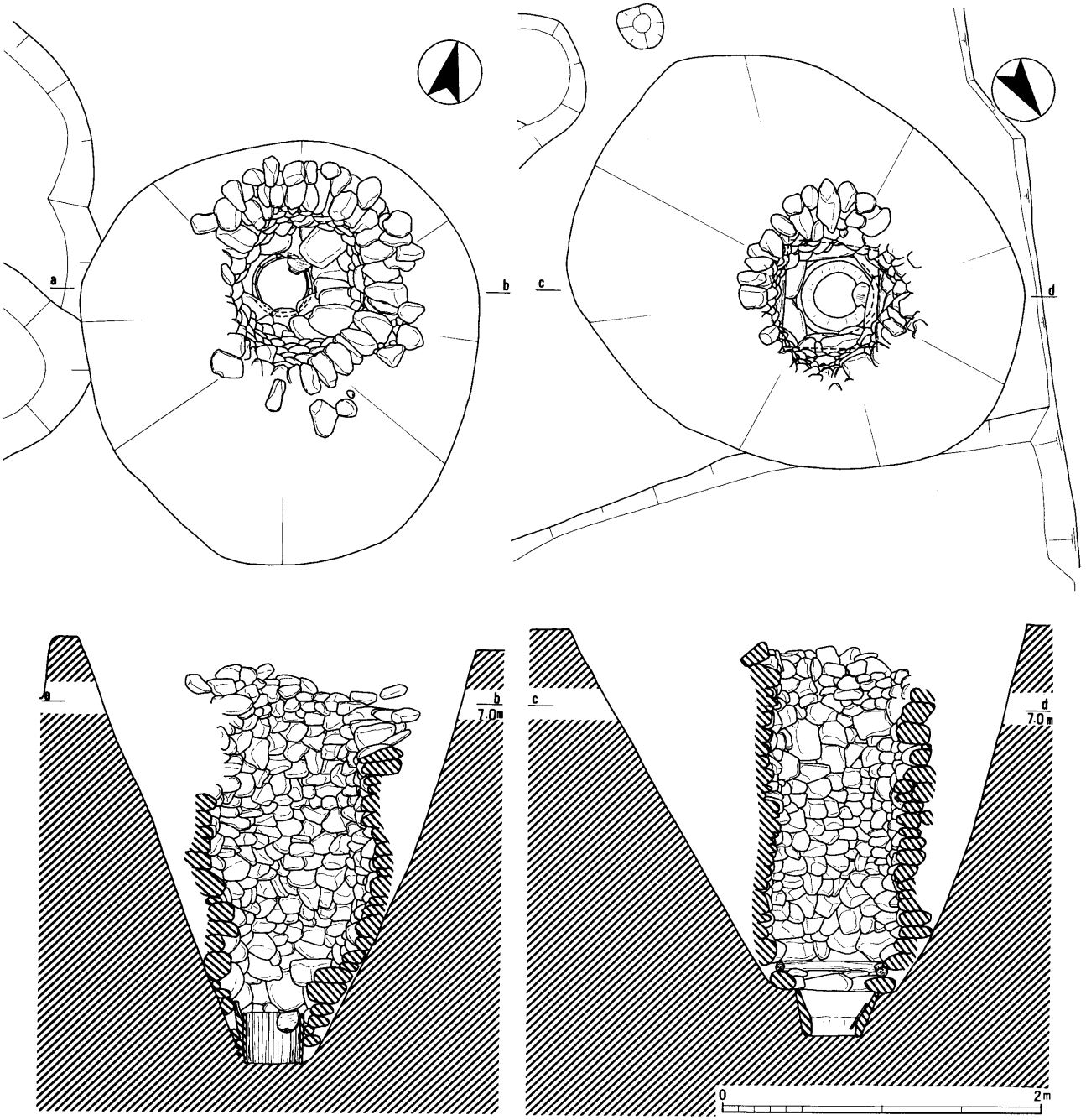
第１図　調査区南壁土層断面図（１：100）



第２図　調査区遺構平面図（１：400）



第３図　調査区主要遺構変遷図（１：1,250）



第４図　ＳＥ44・76実測図（１：40）

いたと考えられる石が混入しており、実際には石組みはもっと上面から存在していたと思われる。遺物は瀬戸・美濃窯陶器の椀類（116～123）、皿（125～132）、香炉（133～136）仏飯具（138・139）、擂鉢（142～148）、土師器の鍋（151～155）、皿（156～160）、肥前系磁器（124）、瓦等が大量に出土した。ひとつの遺構からの一括遺物としては、当遺跡中で最も多かったといえる。

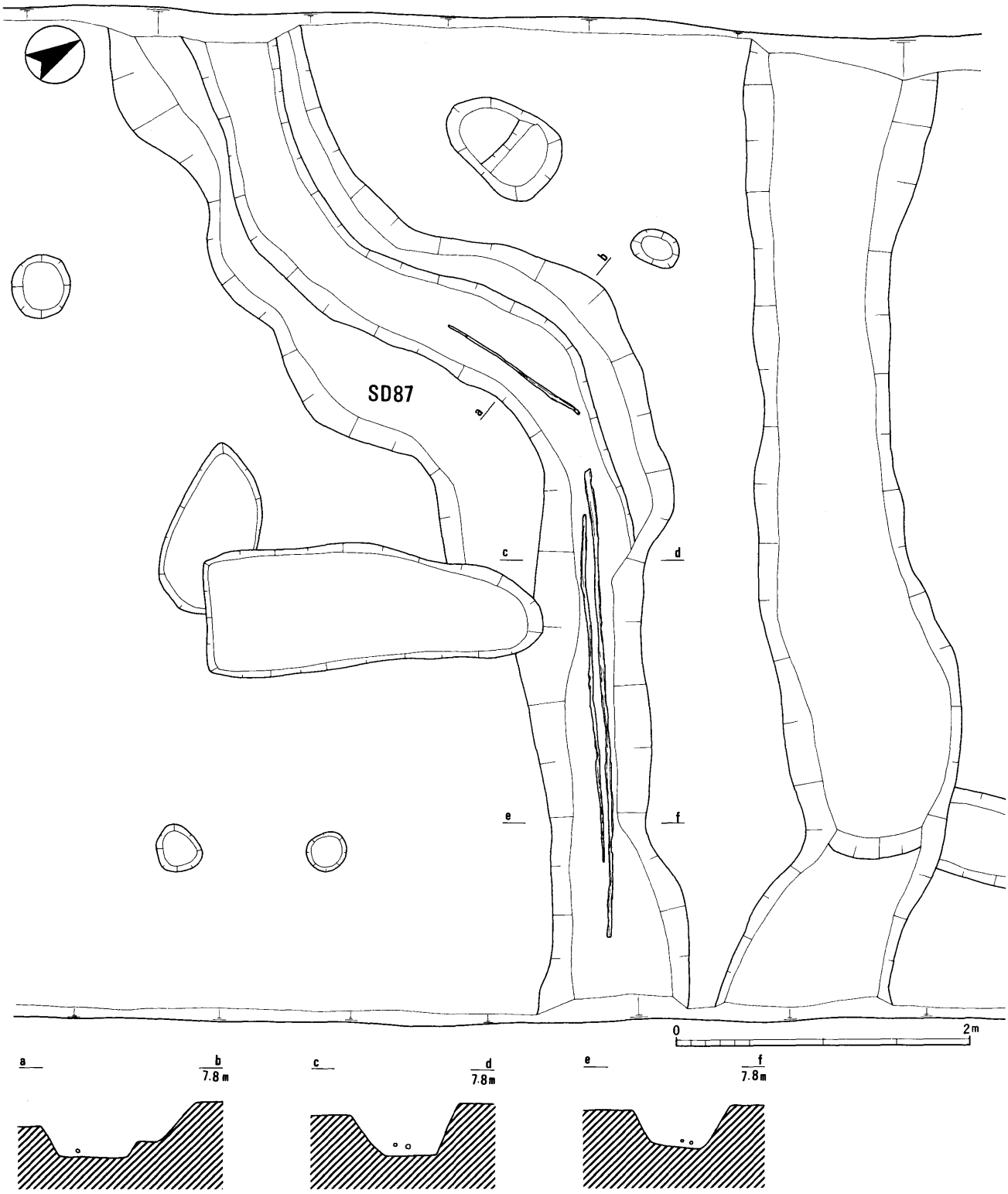
土坑

ＳＫ17

南北調査区と東西調査区が交差する部分で検出された。長径2.5m、短径1.3mの楕円形の土坑で、検出面からの深さは0.9m～1.2mで瀬戸・美濃窯陶器の椀類（161～165）、皿（166）、土師器の焙烙（172）鍋（168）、皿（167）等と共に大量の石がまとまって投棄されていた。

ＳＫ19

南北調査区と東西調査区が交差する部分で検出された。ＳＫ15、17等の周辺の土坑に切られる。残存長径1.5m、残存短径0.9mの土坑である。中央部はピット状に窪んでおり、検出面からの最深部は0.5mである。遺物は、瀬戸・美濃窯陶器の他、信楽窯



第５図　ＳＤ87木製品出土状況図（１：50）

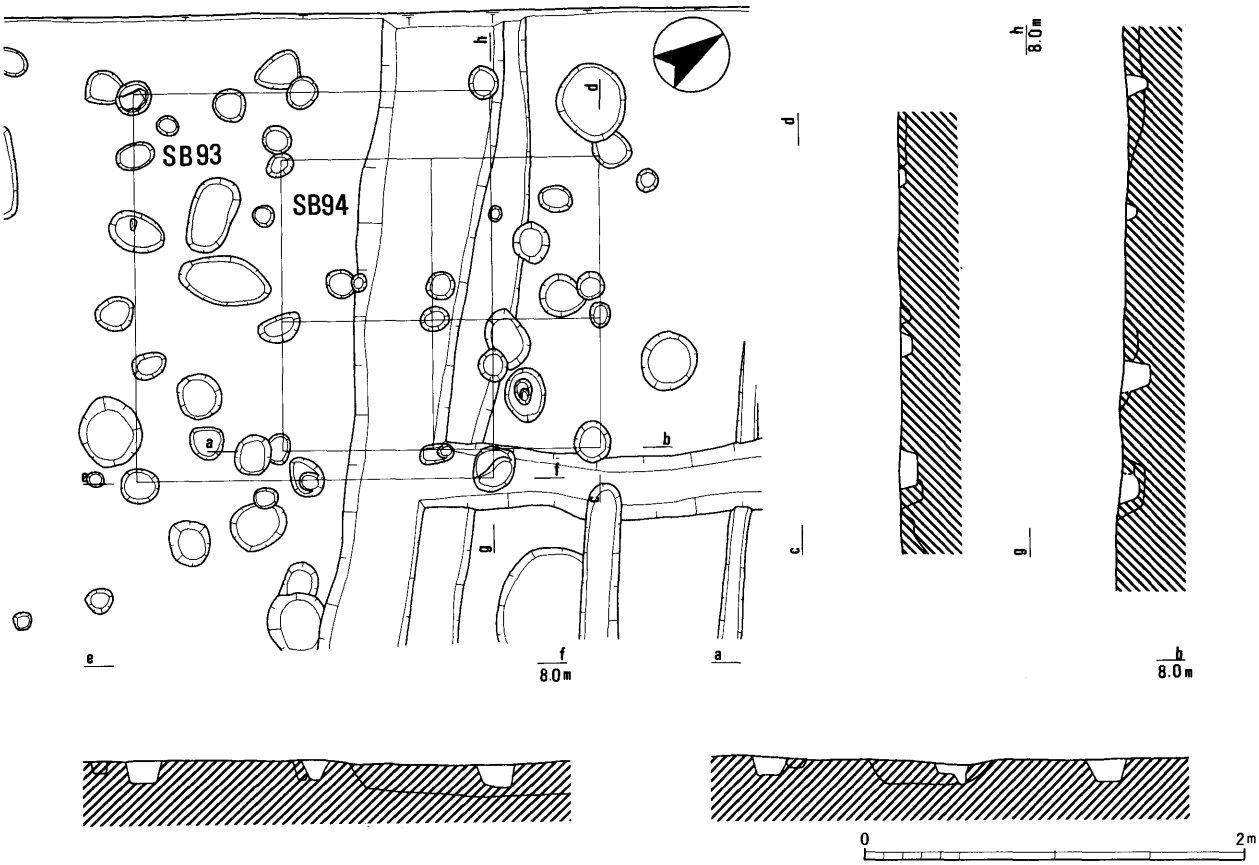
陶器の壺等が出土している。

ＳＫ38

東西調査区で検出された、一辺1.7mのほぼ正方形の土坑で、検出面からの深さは0.6mである。遺物は土師器の皿、鍋、瀬戸・美濃窯陶器の丸椀（169）、片口（170）擂鉢、美濃窯陶器の笠原鉢、土師器の焙烙（172）磁器等の他、加工円盤（171）、瓦が出土している。

ＳＫ50

南北調査区で検出された、長径2.5m、短径1.1m



第６図　ＳＢ93・94平面図・断面図（１：50）

の長方形の土坑である。西端で拳大の石が数個、鉤の手状に配されていた。その石の下から瀬戸・美濃窯陶器の香炉（216）が出土している。

ＳＫ55

南北調査区で検出された、一辺約2.2m、検出面からの深さ0.9～1.0mのほぼ正方形の土坑である。遺物は、瀬戸・美濃窯陶器の椀類（217・218）、皿（219・220）仏飯具（221）、常滑窯陶器の甕、土師器鍋、皿（222）等が出土している。

ＳＫ88

南北調査区で検出された。西側が調査区外に至るため全体像は不明である。残存最大長は、3.2m、検出面からの深さは、0.8～1.0mである。遺物は、瀬戸・美濃窯陶器の椀類（190～192）、徳利、香炉、肥前系の小瓶、土師器の焙烙（197）、皿（196）の他、石臼（198）が出土している。

溝

ＳＤ46

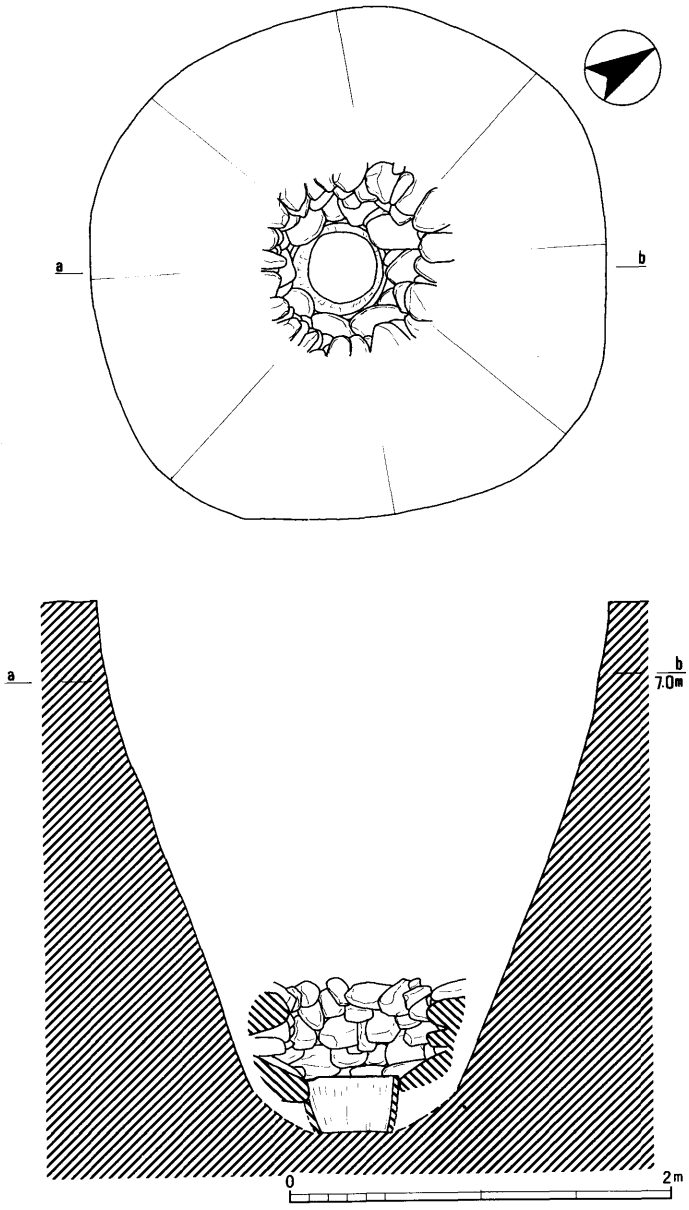
南北調査区で検出された東西溝である。最大幅0.75m、深さは0.3～0.4mで溝底は西に向かって傾斜し、ＳＫ17に切られる。方向はN50°Wである。ＳＫ17に付属する導水施設の様な役割を持つ遺構とも考えられる。遺物は瀬戸・美濃窯陶器の天目茶椀（213）、小杯（214）、磁器、土師器鍋、皿等が出土している。

ＳＤ69

南北調査区で検出された東西溝である。断面は箱形で、最大幅は4.7m、溝底は若干の起伏はあるが、ほぼ水平で約1.2～1.3mである。方向はN57°Wである。埋土は大きく淡灰色砂質シルト、灰褐色粘質土、暗灰褐色粘土、暗灰色粘土の４層に分かれる。

４層目の暗灰色粘土から、木片、木の葉とともに半裁された丸太、杭（318）、漆の椀（311）墨書のある木札（309）、杵と思われる木製品等が出土した。丸太は、長さ2.8m、断面カマボコ形で、東端から約１m位の部分に丸太を固定していたのかとも考えられる杭が検出された。また杭は、明らかに加工していると思われるものは全部で４本で、直径６～８cm、長さ160～180cmである。

杵は、柄の部分の直径４cm、長さ86cmで、四面が



第７図　ＳＥ12実測図（１：40）

加工された丸太の下から出土した。他の出土遺物は、少量で、瀬戸・美濃窯陶器の天目茶椀、丸椀、擂鉢等がある。

ＳＤ83

南北調査区で検出された、調査区の東西を蛇行する溝である。東半の深さは0.35m程であるが、西半はテラス部を持ち、溝底は西に向かって傾斜し、深さは最深部で約0.6mを測る。底部からは東端から中央にかけて、溝のカーブに沿う状態で、平行して幅５cm程の２本の樋状の木製品が検出された。出土遺物は瀬戸・美濃窯陶器の皿（190）びんだらい（188）等がある。

ＳＤ84

南北調査区で検出された東西溝である。調査区東端にかけて膨らみ、調査区外に至る。幅は0.6m～2.0m、溝底はほぼ水平で、0.3～0.4mである。遺物は瀬戸・美濃窯陶器、土師器鍋、皿等が出土した。

ＳＤ89

南北調査区、ＳＤ84の南で検出した東西溝である。最大幅0.9m、溝底は0.25～0.85mで西に向かってかなり上がっている。方向はN57°Wである。遺物は、瀬戸・美濃窯陶器の椀類（175・176）皿（177・178）、擂鉢、肥前系の磁器の花生（179）、常滑窯陶器、土師器の焙烙（186）鍋、皿（182～184）等が出土している。

ｄ．江戸時代中葉～後葉の遺構

土坑

ＳＫ33

南北調査区で検出された。東端は調査区外に至るが、東西の残存長は1.2m、南北は0.4m、検出面からの深さは0.3mである。小規模な土坑ながら、遺物は比較的多く、瀬戸・美濃窯陶器の行平鍋、土師器鍋、皿等の他、瓦が出土している。

ＳＫ41・48・49

南北調査区で検出された不定型の土坑である。当初は一基の土坑として掘削していたが、途中で三基に分けたものである。切り合いは判然としないが、出土遺物からは、時期差はほぼないものと思われる。検出面からの深さは、ＳＫ41が0.7m、48が0.8m、49が0.6mで、各遺構の壁はかなりオーバーハングしている。遺物は陶磁器、土師器等がまとまって出土した。(232～272) 特にＳＫ48からは、大量に瓦が出土した。(318～321)

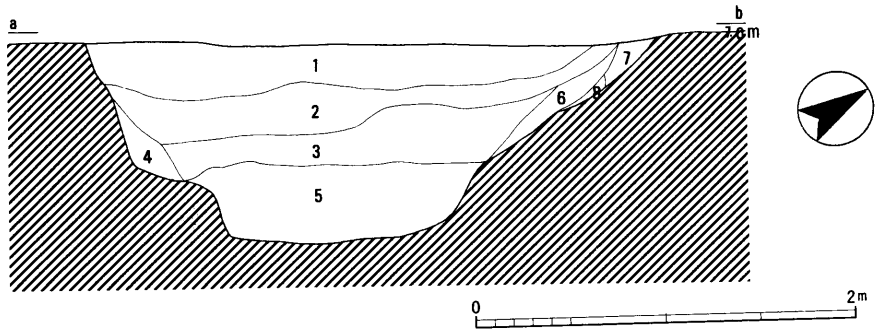
ＳＫ42

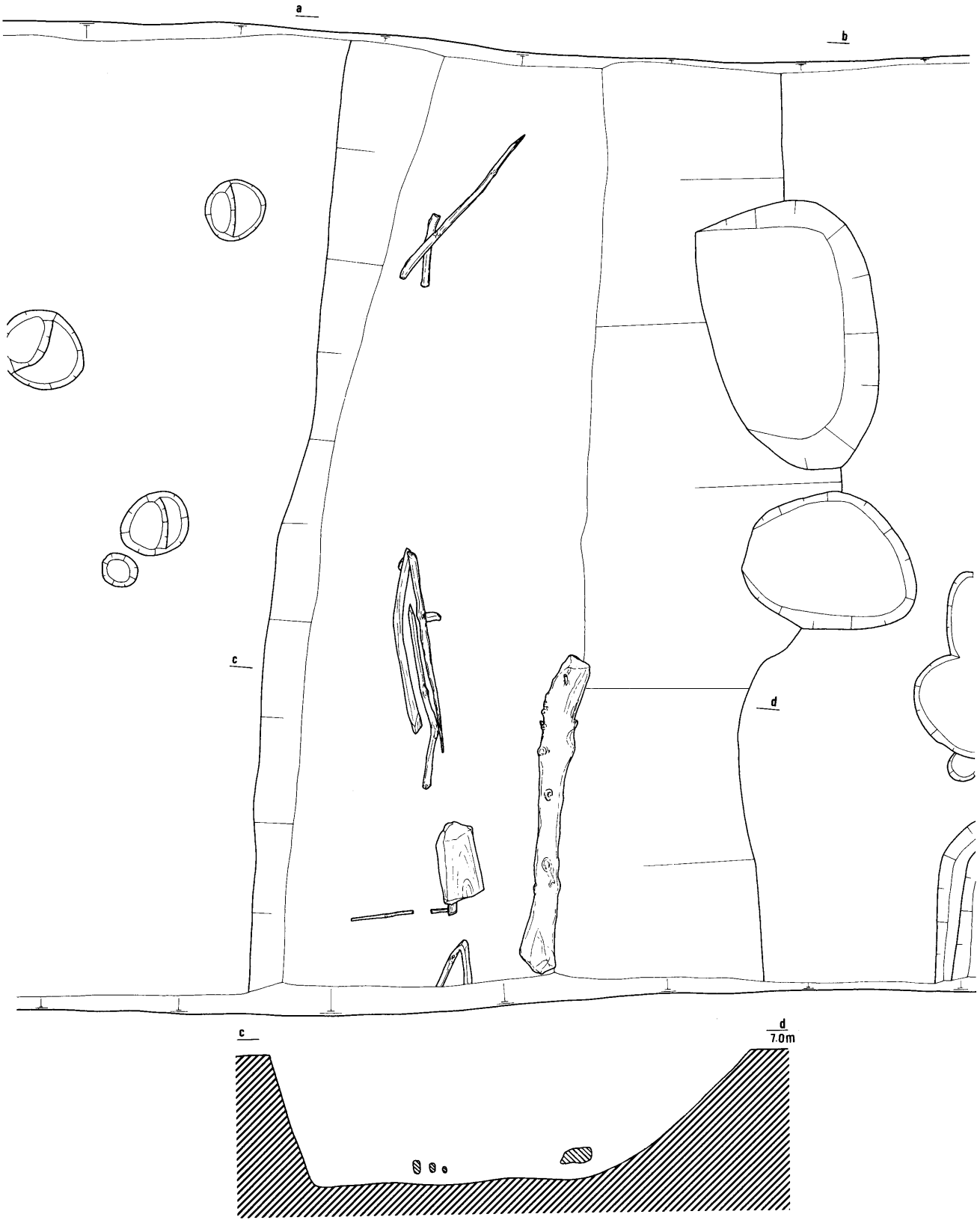
南北調査区で検出された、長径0.9m、短径0.5m、検出面からの深さ0.2mの楕円形の土坑である。ＳＫ49を切る。ＳＫ33同様、小規模ながら関西系陶器の椀、京・信楽系の陶器の蓋(274)、瀬戸・美濃窯陶器（275～280)、瓦等多くの遺物が出土した。

ＳＫ63

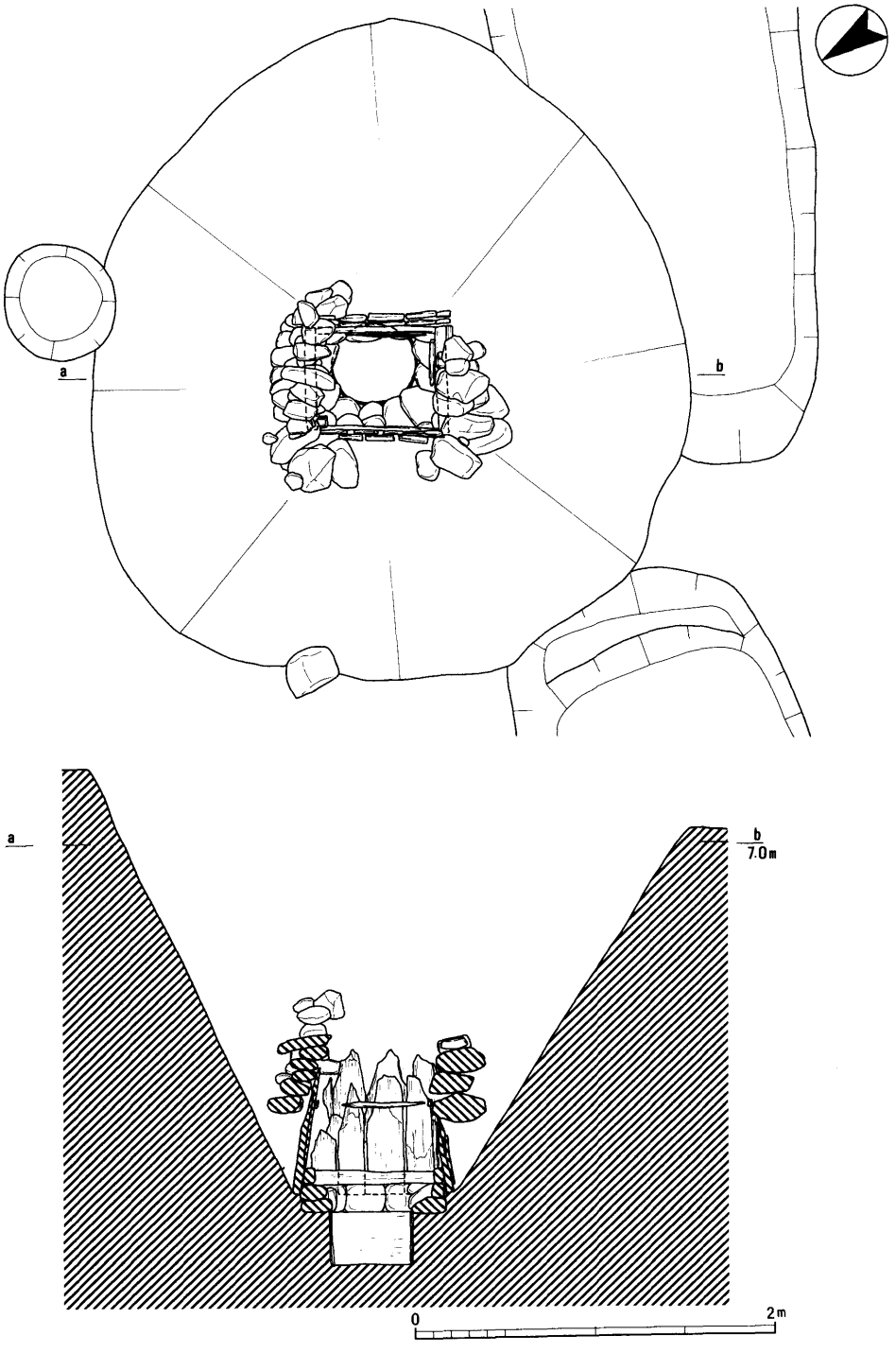
南北調査区で検出された。東端はＳＥ71に切られ西端は調査区外に至る。残存長は東西が4.3m、南北が1.7m、検出面からの深さは、0.6mである。遺

1 淡灰褐色砂質シルトに暗褐色土ブロック混じる
2 灰色褐粘質土に黄褐色砂質シルトブロック混じる
3 暗灰褐色粘土に淡灰色砂質シルトブロック、
黄褐色粘質ブロック混じる
4 黄灰褐色土
5 暗灰色粘土に木片混じる
6 4に鉄分斑混じる
7 淡褐色砂質シルトに鉄分斑混じる
8 6に鉄分斑点多量に混じる





第8図　ＳＤ69木製品出土状況図（1：50）



第９図　ＳＥ71実測図（１：40）

物は瀬戸・美濃窯陶器の椀、皿、擂鉢（284）、香炉、花生、肥前系の磁器の椀（281）、皿（282）、土師器鍋、皿、瓦等が出土している。

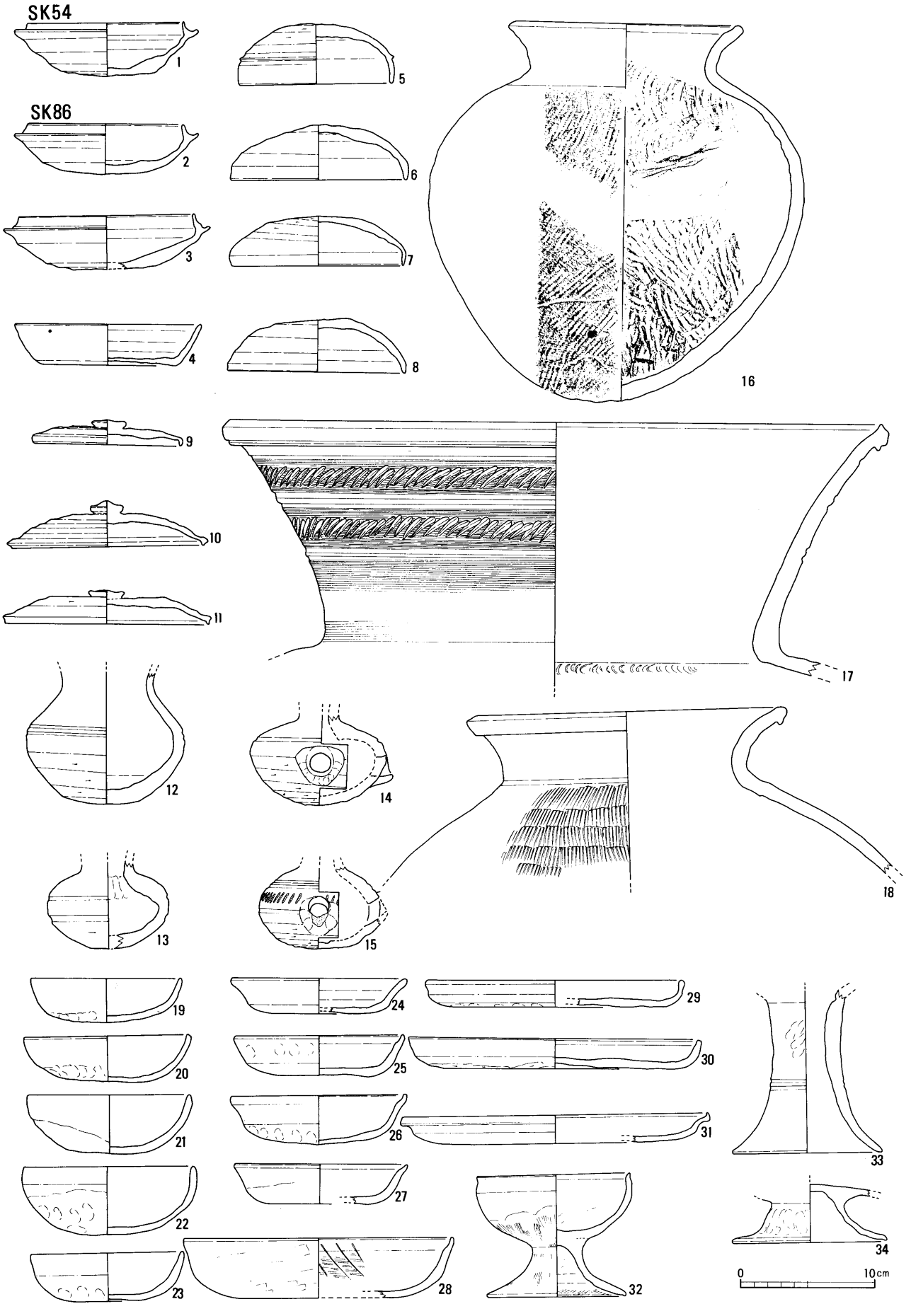
ｅ．時期不明の遺構

井戸

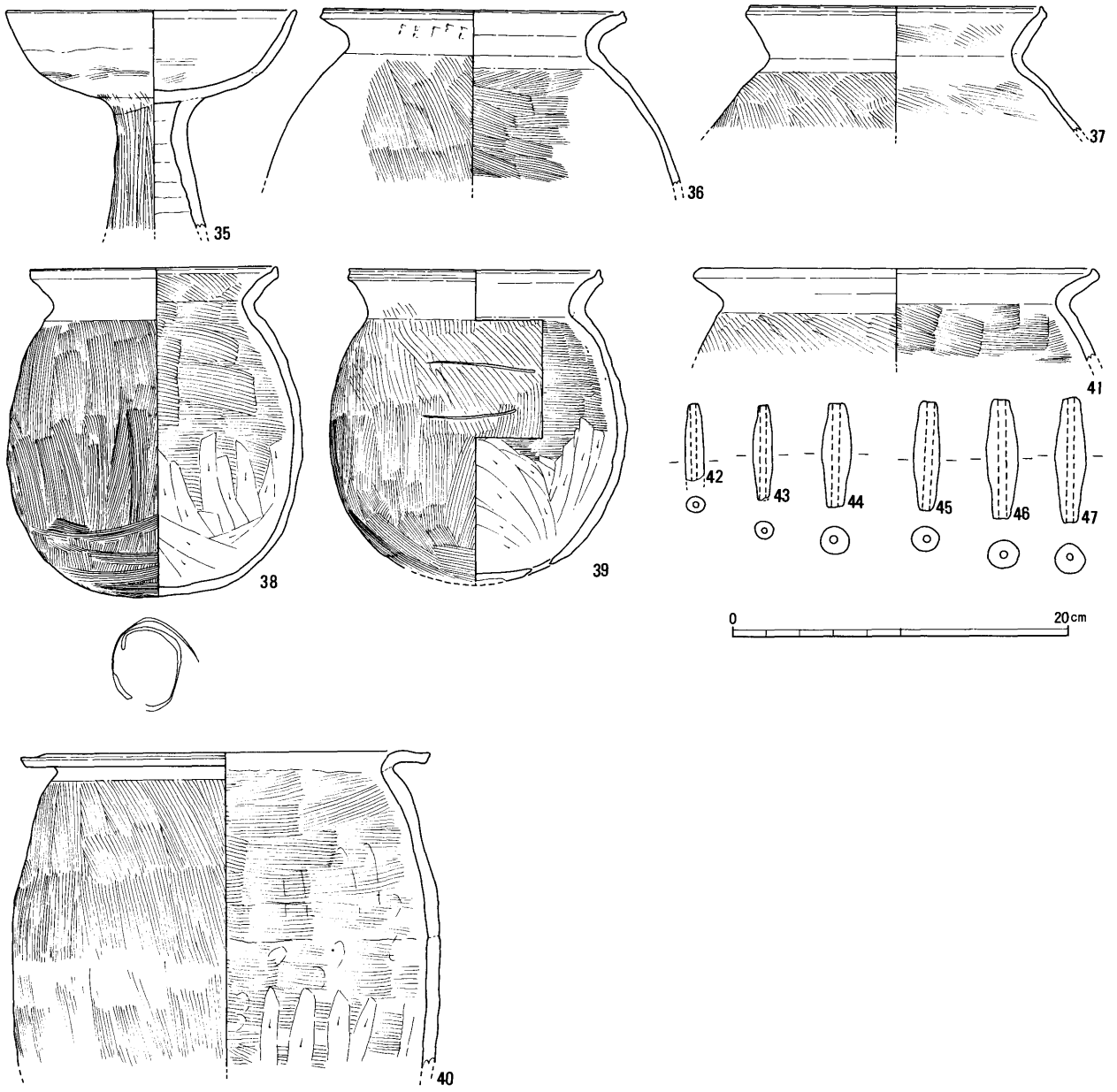
ＳＥ71

南北調査区中央で検出された。掘形は長径3.6ｍ、短径3.2ｍの楕円形で、検出面からの深さは2.4ｍである。

井戸本体は、掘形のほぼ中央に位置している。底から３～６段程石組みが残っており、その下に約80cm四方の正方形の井桁を二重に組んでいる。井桁は一辺に厚さ３cmの板５枚を縦に並べ、それを横に２段、角板で組む構造になっていた。その角板の材質はコウヤマキである。井桁の下には更に下枠として厚さ1.5cm、高さ30cm、内径46cm前後、外径49cm前後の曲物が据えられていた。曲物の材質はヒノキである。遺物は土師器の皿の細片が出土したのみであった。



第10図　ＳＫ54・86出土遺物実測図（１：４）



第11図　ＳＫ86出土遺物実測図（１：４）

２．遺　　物

今回の調査では、大きく飛鳥・奈良時代と戦国時代～江戸時代の遺物が、整理用コンテナに約70箱程出土した。その大半は、江戸時代のもので占められていた。以下、その概略を時代別、遺構毎に述べる。ただ、木製品と瓦は、遺構の別なく抽出し、別個に述べる。

なお、遺物の時期については、瀬戸・美濃窯産製品は藤澤良祐氏[1]、常滑窯産製品は赤羽一郎氏・中野晴久氏[2]、土師器は伊藤裕偉氏[3]の編年にそれぞれ拠っている。また磁器は、大橋康二氏に実見して頂いて、時期等についてのご教示を受けた。

（ａ）飛鳥・奈良時代の遺物

１点を除いてすべて、南北調査区南端から検出されたＳＫ86からの出土である。比較的まとまった量の須恵器、土師器の他、木製品の残存状況も良かった。

ＳＫ54（１）

１は須恵器の杯身である。器高は低く、底部から

受け部まで、直線的に立ちあがる。

ＳＫ86

１～18は須恵器である。２～４は杯身である。２は底部から受け部までのまでの立ちあがりはやや丸みを帯びる。３は全体的にやや直線的で、４は受け部がなくなるタイプのものである。５～11は杯蓋である。扁平で天井部が丸く、稜があまり認められないもの（５～８）とさらに扁平でつまみがつくもの（９～11）がある。12～15は碗である。すべて口縁部を欠く。胴部はやや扁平になる。17・18は甕である。口縁部は外反し、上下に端部は下方に屈曲させる。18は内面には同心円のあて具痕が残る。19～47は土師器である。19～31は杯である。体部から口縁部にかけて、割にまっすぐに立ちあがるもの（19～23）口縁部が外側に反利気味になるもの（24～27）径が大きくて偏平なもの（29～31）がある。

33～35は高杯である。脚部が低いもの（32・34）と高いもの（33・35）ものがある。37～41は甕である。口縁部がそのままが外反するもの、（36）口縁部がわずかに内側に折り返されるもの（37～41）がある。42～47は土錘である。径0.3～0.6、長さ0.7～1.5のものがある。

（ｂ）戦国時代～江戸時代初頭の遺物

摺鉢や土師器の鍋、皿で、全体的に土師器の割合が多かった。

Ａ　遺構出土の遺物（48～307）

ＳＤ２（48～67）

49～54は瀬戸・美濃窯産陶器である。48は志野丸皿である。底部内面に鉄絵による文様が施されている。藤澤編年第１・２小期に比定できよう。49～51は天目茶椀である。高台が幅広なもの（51・52）と狭くやや高いもの（49）とがある。50・51は14世紀後半～15世紀前半の古瀬戸後期に位置づけられ、他の遺物よりは若干古い様相を呈する。52・53は擂鉢である。54～67は土師器である。54～56は皿で、口縁部がやや肥厚し、体部は内彎しつつ立ち上がるもの（56）と開き気味に立ち上がるもの（54・56）とがある。57・58は土師器の羽釜で、口縁部を折り返しているもの（57）とそのまま立ち上げているもの（58）とがある。59・60は茶釜型羽釜で、頸部がまっすぐに立ち上がり口縁部が短く外に引き出されるもの（60）と頸部からそのまままっすぐに立ち上がり口縁部がやや肥厚するもの（59）とがある。61～67は鍋である。口縁部を内側に折り返すもの（61・64）とやや下方に引き出すもの（62・63・65～67）とがある。

ＳＫ34（68・69）

ともに土師器の皿である。底部と体部の厚みにほぼ変化がないもの（68）と底部から体部にかけて厚くなるもの（69）とがある。

ＳＫ11（70）

瀬戸・美濃窯産陶器の水注である。注口がつく口縁部のすぐ下方に最大径をもつ。底部の一部分を除き、全面に鉄釉が施される。

ＳＥ76（71～75）

71～73は瀬戸・美濃窯産陶器である。71は壺の底部である。72・73は天目茶椀である。口縁部は上方にそのまま立ち上がるもの（72）とやや外反するもの（73）とがある。74・75は土師器である。74は皿で底部からやや丸みをもって立ち上がり、口縁部はそのまま上方に引き上げられる。75は鍋で、下方に引き出した口縁部にやや丸みを帯びた体部を持つ。

ＳＫ65（76・77）

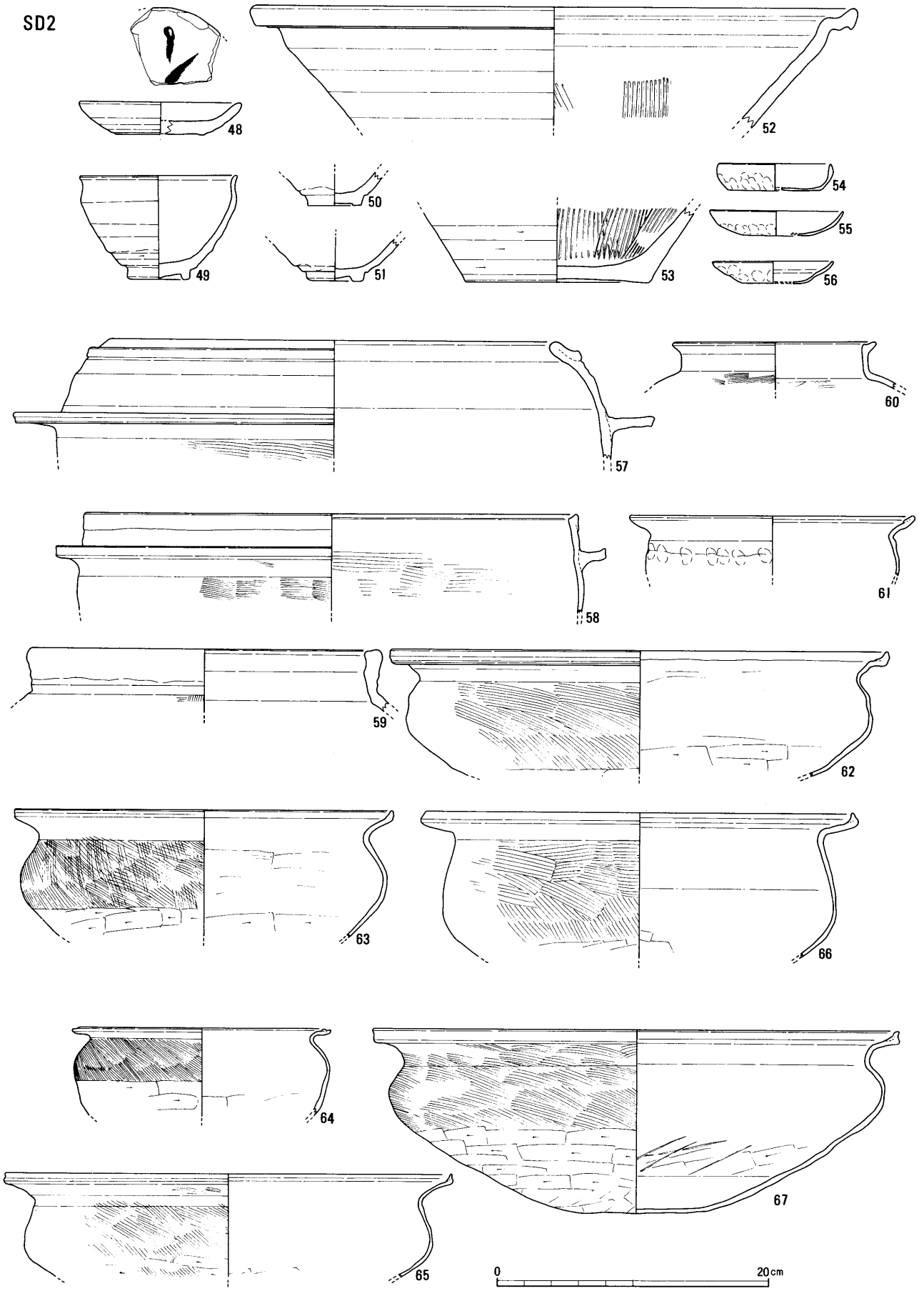
76は土師器の焙烙である。77は火鉢である。

ＳＤ90（78～106）

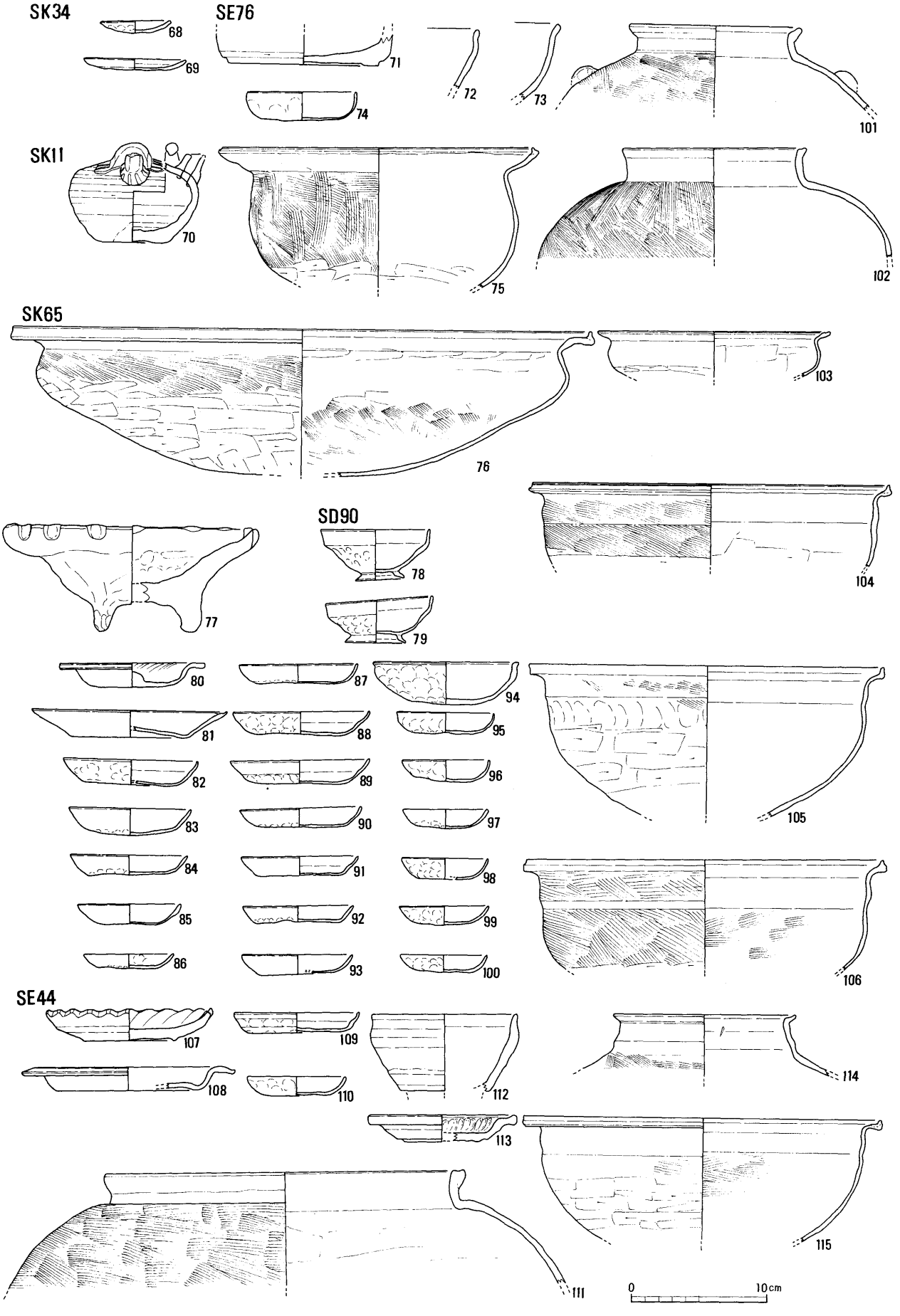
すべて土師器である。78・79は椀である。体部は直線的に開き、口縁部付近は直立する。高台は細長い三角形でやや外反する。80は蓋である。丸みを帯びた体部に水平方向に引き出された口縁部がつく。81～100は皿である。体部がほぼ直線的に立ち上がるもの（81～92）とやや丸みを持って立ち上がるもの（93～100）とがある。101・102は茶釜型羽釜で短く直立する頸部に外反する口縁部がつく。103～106は鍋である。口縁部を内側に折り返すもの（103）と下方に引き出すもの（104～106）がある。

ＳＥ44（107～111）

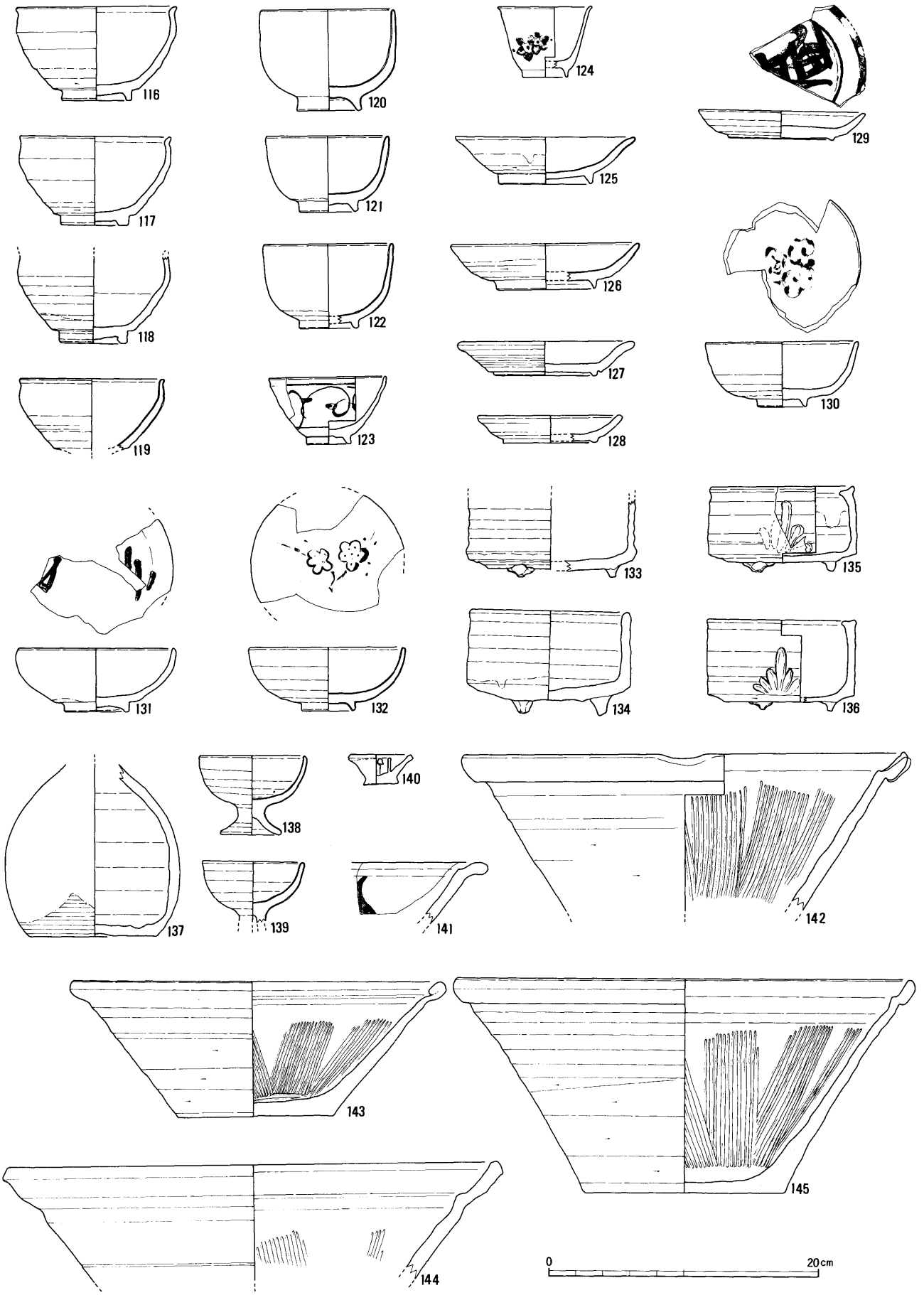
107は瀬戸・美濃窯産陶器の菊皿である。口縁端部をヘラ状工具によりカットして花弁風にしている。全面に長石釉が施されている。108～111は土師器である。109は蓋である。底部は中央部がやや盛り上がり、水平方向よりはやや下方に引き出された口縁



第12図　ＳＤ２出土遺物実測図（１：４）



第13図　ＳＫ34・11・65・ＳＤ90・ＳＥ76出土遺物実測図（１：４）



第14図　ＳＥ12出土遺物実測図（１：４）

部を持つ。109・110は皿である。111は茶釜型羽釜である。短く直立する口縁部は端部が肥厚する。

ＳＺ60（112～115）

112・113は瀬戸・美濃窯産陶器である。112は天目茶椀である。体部は直線的に立ち上がり、口唇部は直立し、端部はあまり外反しない。高台周辺を除き鉄釉が施される。113は折縁皿である。無高台で体部内面に丸ノミ状工具による刻文がみられる。114は土師器茶釜型羽釜、115も同じく土師器鍋である。

ＳＥ12（116～160）

116～149は123・124を除きすべて瀬戸・美濃窯産陶器である。116～119は天目茶椀である。体部は直線的に立ち上がり、口縁部は直立するが端部はやや外反する。高台部周辺を除きすべて鉄釉が施されている。120～122は丸椀である。体部は半球形を呈し、下方は丸みを帯びて立ち上がる。高台部周辺を除き鉄釉が施される。122・123は肥前系磁器である。123は広東椀で、体部外面には呉須による文様が描かれている。124は染付の小杯で、型紙摺りの技法が用いられている。125～130は皿である。129は底部内面に鉄絵による文様が描かれている。130～132は梅文皿で、底部内面に鉄絵による梅文が描かれている。132は比較的、丁寧に描かれており、梅花は五弁となっている。

133～136は香炉である。体部下方はやや丸味を帯びるが、上方はほぼ直立し、口縁端部は玉縁状になるもの（133・134）と体部下方に稜が入り、上方は直立し、口縁端部は平坦になるもの（135・136）とある。体部上方に135は灰釉、それ以外は鉄釉が長し掛けられる。

137は徳利である。底部周辺を除き錆釉が施釉される。

138・139は仏飯具である。140は灯明具である。141は笠原鉢である。142～148は擂鉢である。149は壺である。150は常滑窯産陶器の鉢である。151～160は土師器である。151～154は焙烙で、155は鍋である。156～160は皿である。159以外は体部は底部から口縁部にかけて、やや肥厚する。

ＳＫ17（161～168）

162～167は瀬戸・美濃窯産陶器である。161・162は天目茶椀である。体部外面には鉄釉が施されている。

163は小杯、164は丸椀である。165は腰錆茶椀である。166は皿である。内外面は底部を除き、灰釉が施されている。167・168は土師器である。167は皿で、168は茶釜形羽釜である。

ＳＫ38（169～172）

172を除き、全て瀬戸・美濃窯産陶器である。169は丸椀、177は片口、178は加工円盤である。172は土師器の焙烙である。

ＳＫ37（173・174）

全て土師器である。173は鍋、174は皿である。

ＳＤ89（175～198）

175・179は肥前系磁器である。175は型紙摺の技法が用いられた仏飯具の杯部である。177は青磁の花生で、畳付には鉄釉が施されている。177・178・181・182は瀬戸・美濃窯産陶器である。177は丸椀で、底部周辺を除き、鉄釉が施されている。178は皿である。底部内面に鉄絵による文様がわずかに残る。180・181は擂鉢である。182～187は土師器である。185は焙烙で、残りは全て皿である。

ＳＤ83（188・189）

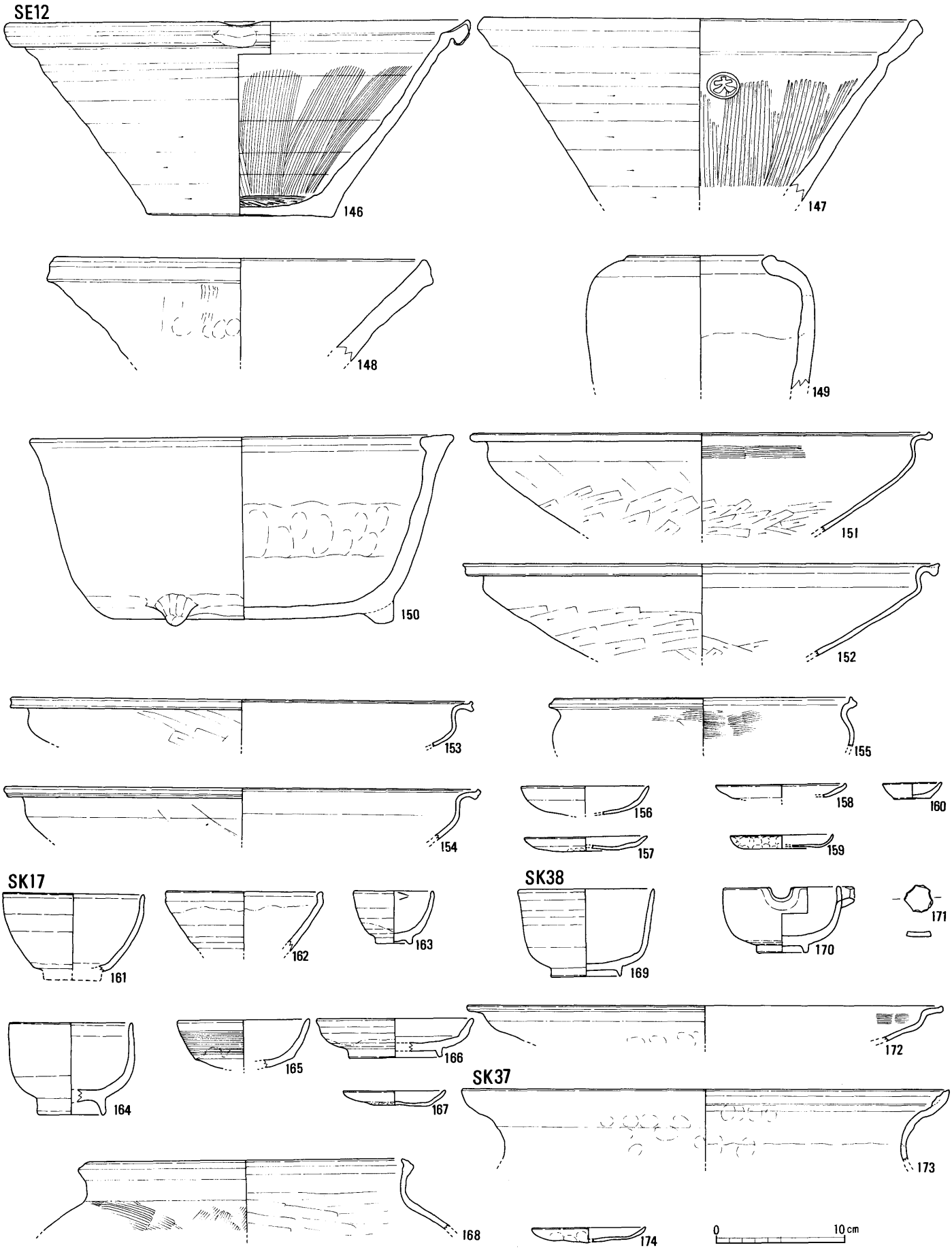
すべて瀬戸・美濃窯産陶器である。188は染付陶器のびんだらいで、189は灰釉の皿である。

ＳＫ88（190～198）

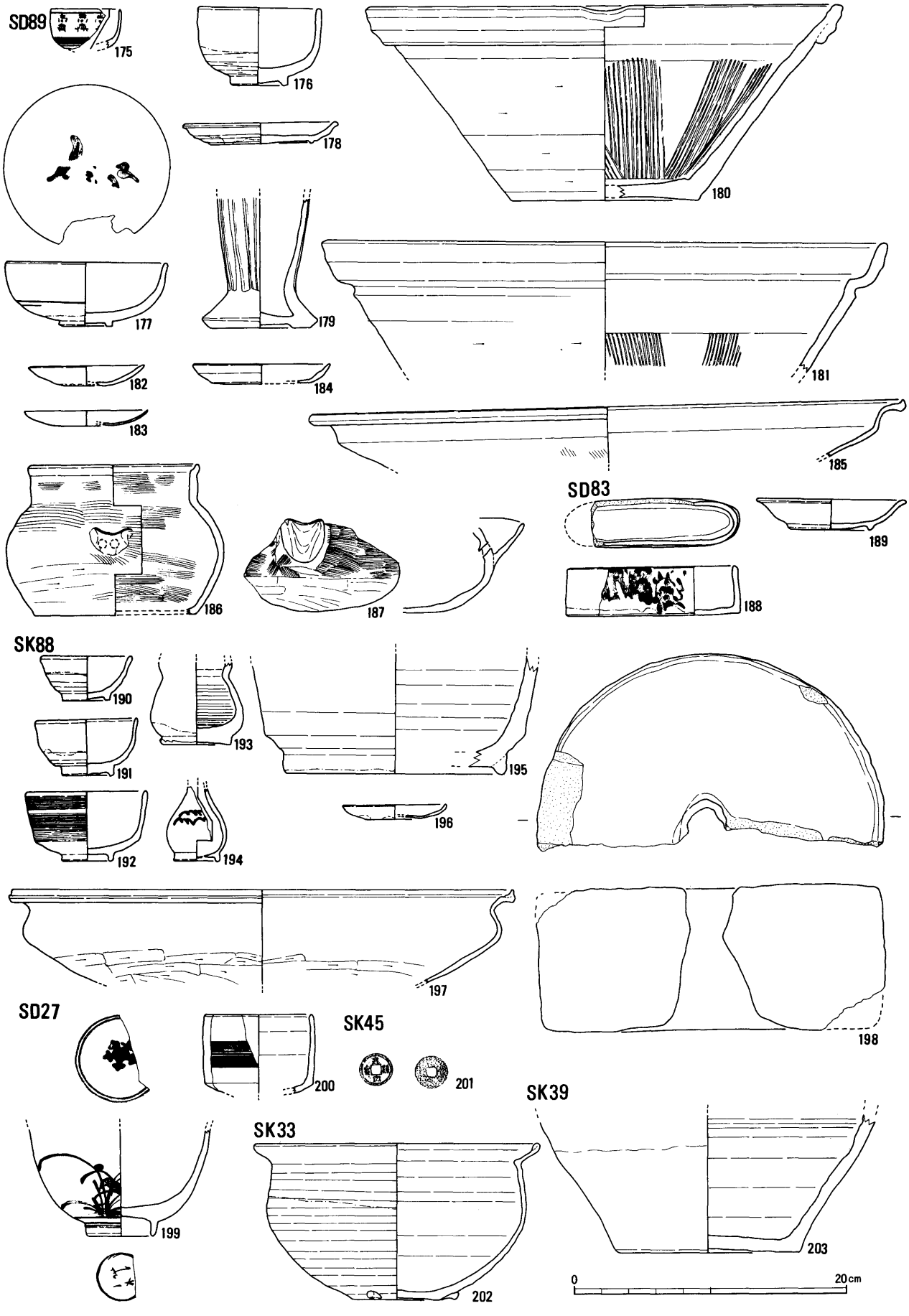
194は肥前系磁器の染付の小瓶である。上部を欠くが、口縁部が玉縁状になるタイプの製品である。190～193・195は瀬戸・美濃窯産陶器である。190・191は小椀である。192は腰錆茶椀で、体部下方に稜が入り、上方はほぼ直立する。体部中央に櫛描き沈線が数多くはいることから「糸目」という名称がある。体部上方から下方にかけて鉄釉、口縁部から内面にかけて灰釉の掛け分けである。193は小瓶か花生で、外面のみ灰釉が施されている。195はねり鉢で、高台底部を除き、鉄釉が施される。198は土師器の焙烙である。198は石臼である。

ＳＤ27（199・200）

199は波佐見窯産陶器の丸椀で底部外面に「太明年製」のくずれの文字がある。200は京・信楽系陶器の箱型湯呑みで、体部下方が屈折し、上方は直立する。体部中央には一条の鉄絵による横線が入る。



第15図　ＳＥ12・ＳＫ17・37出土遺物実測図（１：４）



第16図　ＳＤ27・83・89・ＳＫ33・39・45・88出土遺物実測図（１：４）

ＳＫ45（201）

銭貨で「皇宋通宝」の銘がある。

ＳＫ33（202）

瀬戸・美濃窯産陶器の行平鍋で、底部は三方に脚がつく。内面は全面、外面は体部中央付近まで灰釉が施されている。

ＳＫ39（203）

瀬戸・美濃窯産陶器の擂鉢の底部である。

ＳＫ19（204～212）

204は景徳鎮産の染付磁器である。外面の文様は玉取り獅子文か。

205・206は瀬戸・美濃窯産陶器である。205は天目茶椀、206は急須か瓶類の蓋である。207は常滑窯産陶器の甕の底部である。208～212は土師器である。208・209は鍋、210・211は焙烙である。212は皿である。中央部で段が明確につき、口縁部は直立に立ち上がる。

ＳＤ46（213～215）

全て瀬戸・美濃窯産陶器である。213は天目茶椀である。214は小椀である。215は甕類で、内外面全面に鉄釉が施されている。

ＳＫ55（216）

瀬戸・美濃窯産陶器の香炉である。外面は底部を除き、内面は口縁部付近のみ、灰釉が施されている。

ＳＫ55（217～224）

217～221は瀬戸・美濃窯産陶器である。217は丸椀である。高台周辺を除き鉄釉が施される。

体部内外面には灰釉が流し掛けられる。218は小椀である。高台周辺を除き、灰釉が施される。219・220は皿である。高台周辺を除き、灰釉が施され、内外面には緑釉が流し掛けられる。220はいわゆる梅鉢皿である。底部に梅文が施される。221は仏飯具である。内外面は脚部内面を除き、灰釉が施される。222～224は土師器である。222は皿である。体部中央で明瞭に段が見られるタイプである。223は鍋である。224は 焙烙である。

ＳＤ69（225～229）

225～227は銭貨で、すべて、寛永通宝である。228・229は瀬戸・美濃窯産陶器である。228は丸椀で、外面は笹文が施されている。229は天目茶椀である。内外面は鉄釉が、高台周辺は錆釉が施される。

230は瓦質の鉢類である。231は肥前系陶器で、外面下方部は鉄釉で上方部は透明釉が施されている。内面は象嵌の技法が用いられ、三島手と呼ばれるものである。

ＳＫ48（232～272）

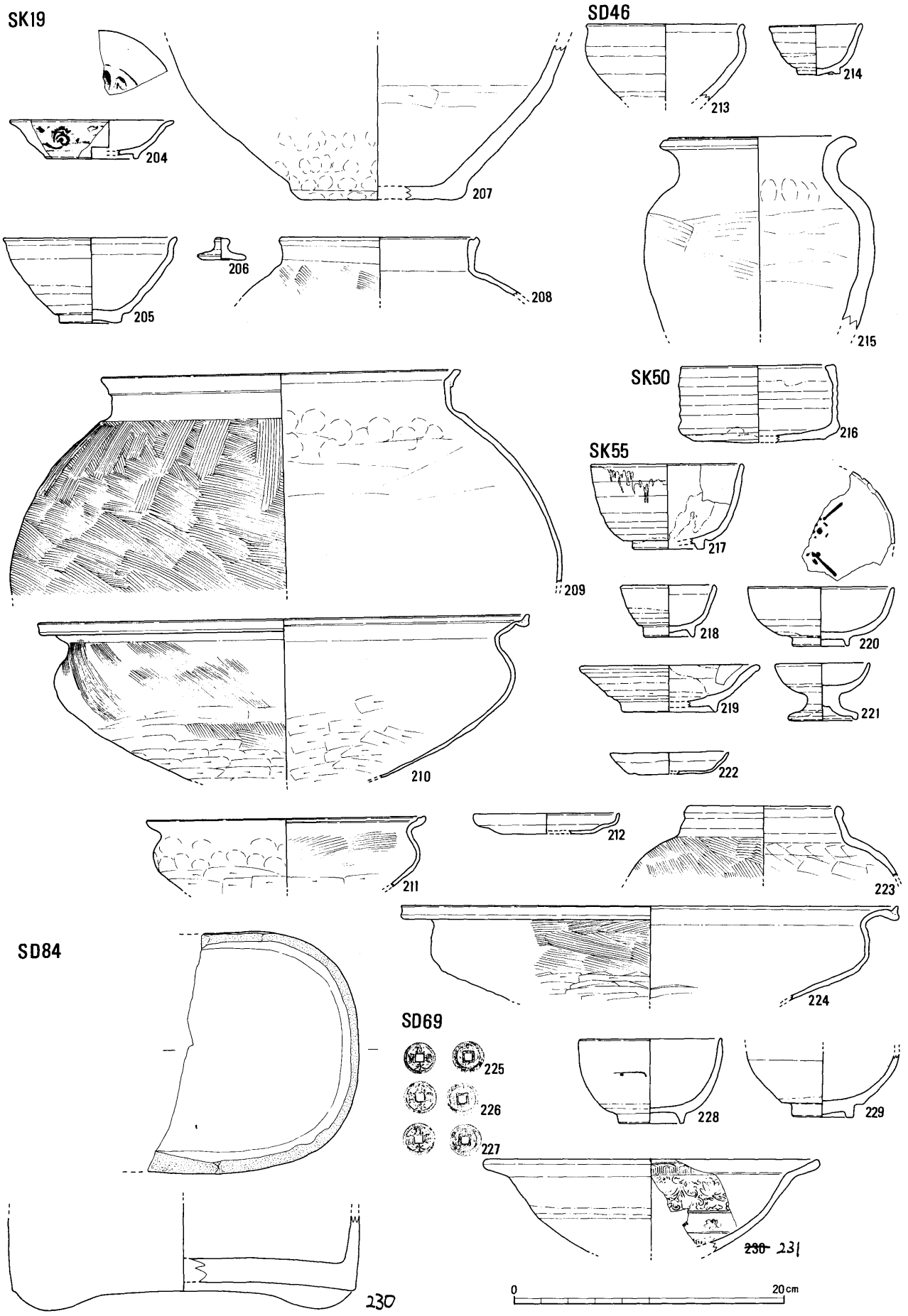
232・233は瀬戸・美濃窯産陶器の丸椀である。234～242・244は磁器である。234・235は瀬戸・美濃窯産磁器の椀である。234は染付で高台部外面に「大化年製」の銘がみえる。236は肥前系磁器の椀である。237・238は瀬戸・美濃窯産磁器の椀で237は底部外面に、焼継の跡がある。239・240は瀬戸・美濃窯産製品の椀である。242は肥前系磁器の端反り椀の蓋である。焼継（三ノ三三か四）の跡がみえる。243は瀬戸・美濃窯産陶器の小杯である。244は肥前系陶器の蕎麦猪口である。245は瀬戸・美濃窯産陶器の皿である。体部内外面に鉄絵が描かれる。246は肥前系陶器の染付皿である。底部内面に鉄絵で山水文が描かれ、脚付ハマの融着がみられる。

248は美濃窯産陶器の笠原鉢である。249～251は瀬戸・美濃窯産陶器の灯明皿である。252は肥前系白磁の小杯である。253は瀬戸・美濃窯産陶器の餌鉢である。254は肥前系陶器（関西近辺の窯の可能性もある）の梅文小瓶である。瀬戸・美濃窯産陶器の仏飯具である。256～258は瀬戸・美濃窯産陶器の蓋である。

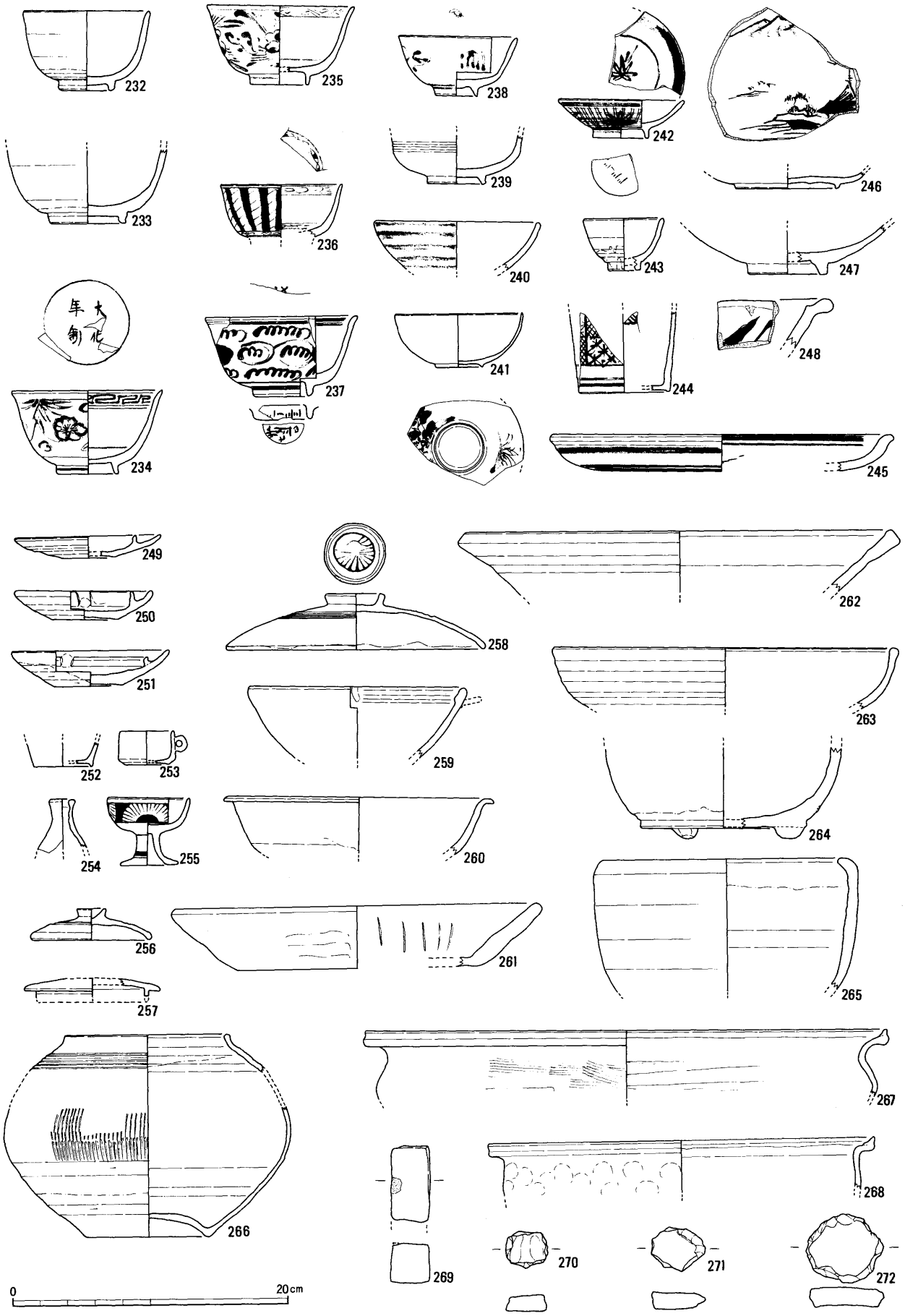
259は瀬戸・美濃窯産陶器の片口である。260～263は瀬戸・美濃窯産陶器の鉢類である。264は瀬戸・美濃窯産陶器の水盤である。外面は高台部周辺を除き、鉄釉が施される。266は瀬戸・美濃窯産陶器の鍋である。外面は底部周辺を除き、灰釉が施されている。267・268は土師器の鍋である。269は砥石である。270～272は加工円盤である。

ＳＫ42（273～279）

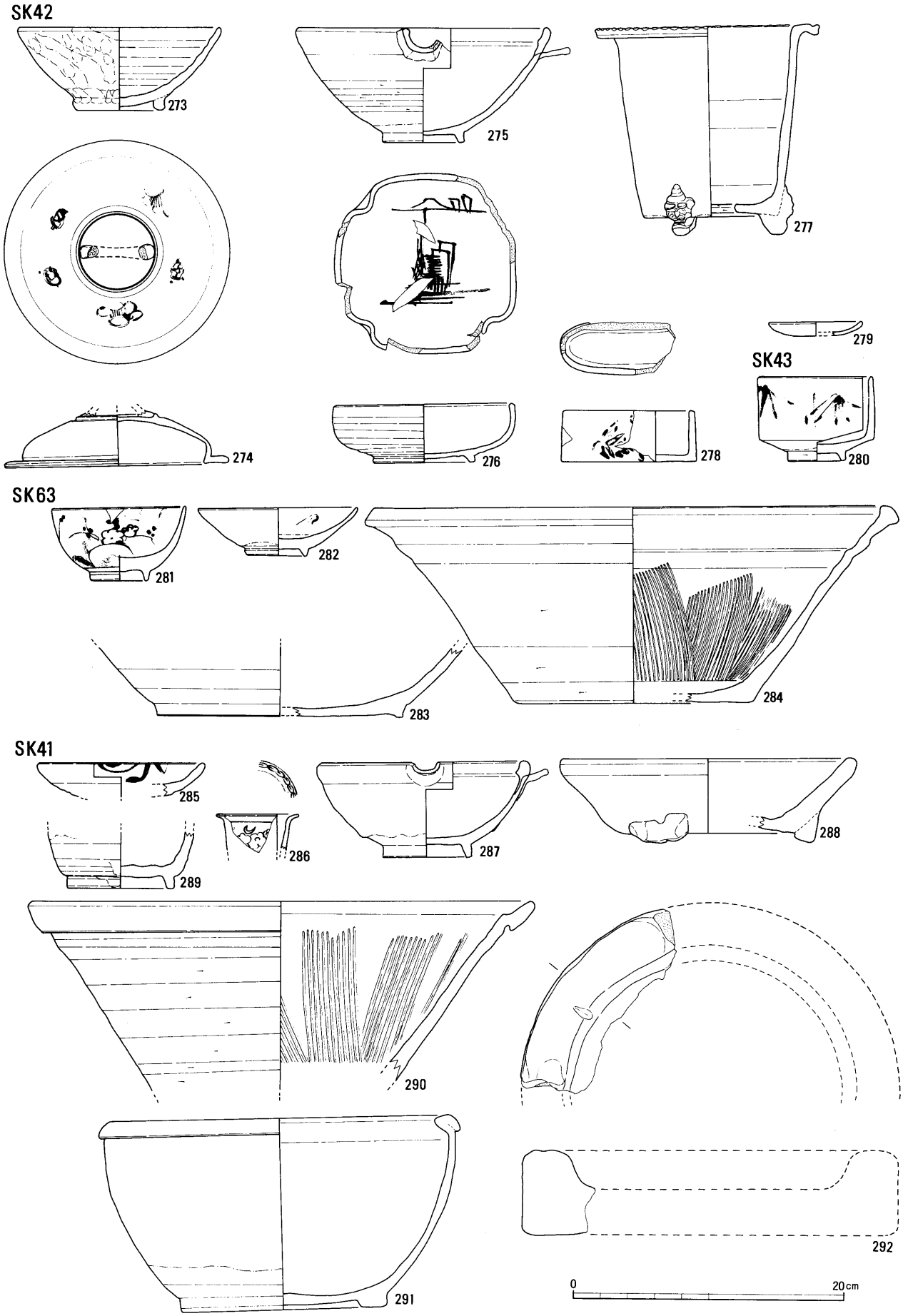
273は関西系の陶器の椀である。内外面は鉄釉の上に藁灰釉が施されている。274は京・信楽系の陶器の蓋である。275～278は瀬戸・美濃窯陶器である。274は内外面に灰釉が施されている。275は片口鉢である。内外面に灰釉が施される。276は型打皿で高台周辺を除き、内外面に灰釉が施されている。底部外面に鉄絵で文様が施される。277は植木鉢である。底部を除き、灰釉が施される。脚は獣脚となってお



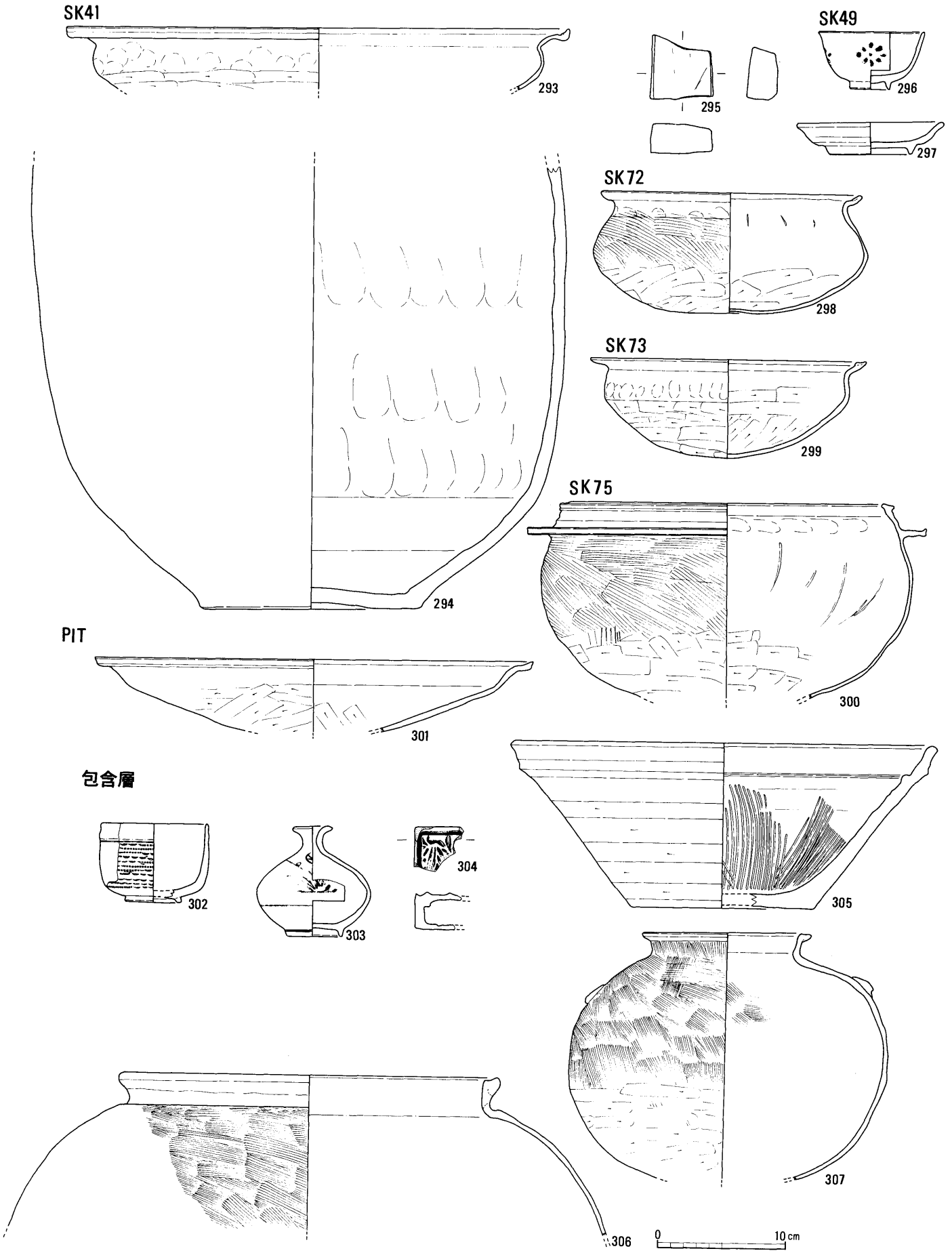
第17図　ＳＤ69・46・84・ＳＫ19・50・55出土遺物実測図（１：４）



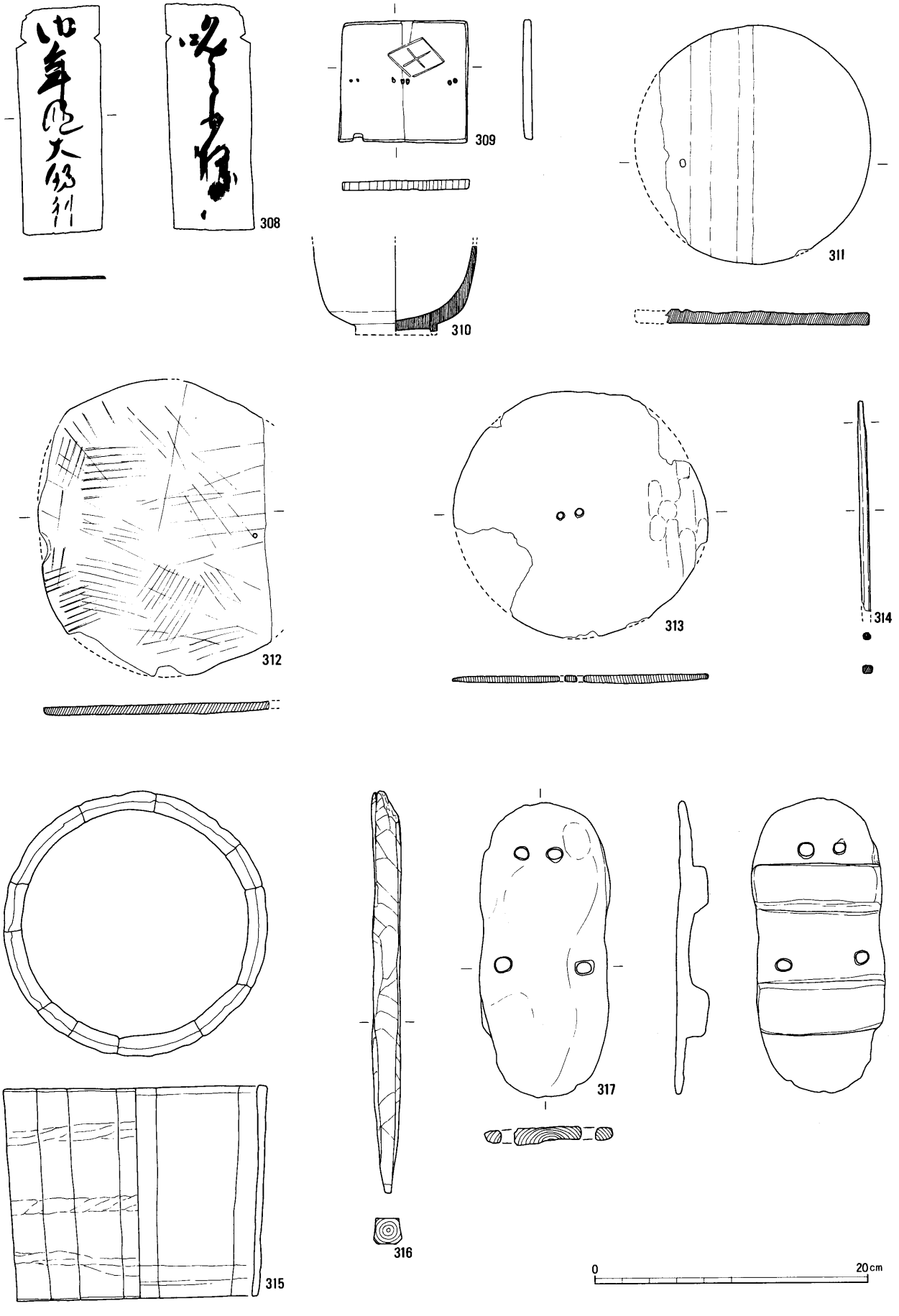
第18図　ＳＫ48出土遺物実測図（１：４）



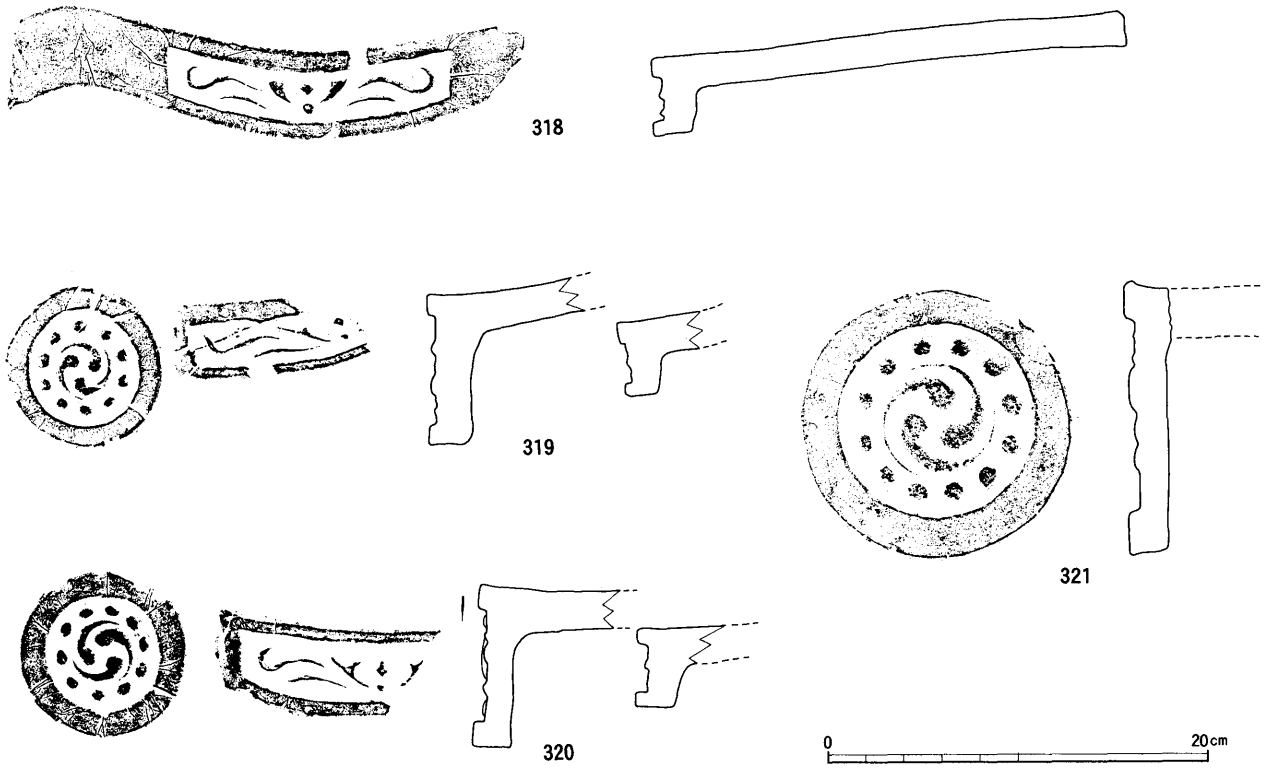
第19図　ＳＫ41～43・63出土遺物実測図（１：４）



第20図　ＳＫ41・49・72・73・75・Ｐｉｔ包含層出土遺物実測図（１：４）



第21図　出土木製品実測図（1：4）



第22図　出土瓦実測・拓本図（1：4）

り、三足である。底部は焼成前穿孔および、判読しかねるが、印刻文が見られる。278はびんだらいである。外面は灰釉が施されている。279は土師器の皿である。

ＳＫ43（280）

瀬戸・美濃窯陶器の染付湯呑みである。外面は呉須により、三方に笹竹を配した文様がみられる。

ＳＫ63（281～284）

281・282は波佐見窯産磁器である。281は丸椀で底部外面にくずれた「太明年製」銘が見られる。282は染付の皿である。底部内面に蛇の目釉はぎの手法が見られる。283は瀬戸・美濃窯産陶器の鉢類である。284は擂鉢である。

ＳＫ41（285～295）

285・287・290・291は瀬戸・美濃窯産陶器である。285は皿で内外面灰釉が施され、体部内面に鉄絵による文様が描かれている。287は片口である。高台周辺を除き鉄釉が施される。290は摺鉢である。291は練鉢である。高台周辺を除き灰釉が施されている。286は肥前系陶器（関西周辺の窯の可能性もある）の植木鉢である。292・295は石製品で、石臼の一部か。295は砥石である。293は土師器の焙烙である。294は常滑窯産陶器の甕である。

ＳＫ49（296・297）

296は瀬戸・美濃窯産の磁器の小椀である。体部外面には呉須により、梅文が4ヵ所施されている。297は瀬戸・美濃窯産の陶器の皿である。内外面は高台周辺を除き、灰釉が施されている。

ＳＫ72（298）

土師器の鍋である。

ＳＫ73（299）

土師器の鍋である。

ＳＫ75（300）

土師器の羽釜である。

Ｐｉｔ（301）

土師器の焙烙である。

Ｂ　包含層出土の遺物（301～307）

302～305は瀬戸・美濃窯産陶器である。302は鎧湯呑である。文様を彫り込んだ回転体施文具を用い、体部に螺旋状の連続文様を施したものである。体部から底部にかけては飴釉、口唇部から内面にかけては鉄釉の掛け分けがなされている。303は肥前系磁器の染付の油壺である。304は瀬戸・美濃窯産陶器の水滴である。外面のみ灰釉が施されている。305

は瀬戸・美濃窯産陶器の擂鉢である。306・307は土師器の鍋である。

C　木製品（308～318）

308は木簡である。材質はヒノキ（学名：Chamaecyparis obtusa Endl.）両面に「御年徳大明神」・「唸々如律令」の墨書が残る。木簡上端に約３㎜の三角形の切り込みが認められる。当遺跡の所在する松阪市を含む南伊勢地方では、いずれの文言ともそれだけでも正月に門松や注連縄などとともに魔除けの札として書かれ、玄関に付ける風習が現在でも残っている。309は木札である。材質はヒノキである。一方の面に花菱の文が彫り込まれている。310は漆の椀である。材質はケヤキ（学名：Zelkova Serrata Makino）である。上部をすこし欠く。311～313は曲物の底板と思われる。314は一本のみの出土であるが、 恐らく箸であろう。315は井戸の下枠として使われていたものである。ＳＥ44に使用されていたもので、材質はヒノキかケヤキである。11枚の側板をタガで緊縛した跡が残る曲物である。316はＳＤ69から出土した木片の中で、明らかに杭として加工されている４本のうちの一本である。317は木製品の下駄である。使用されている木材はコウヤマキ（学名：Sciadopitys verticillata Sieb.et Zucc.）である。サイズは小振りで、21㎝ほどしかない。

D　瓦（318～321）

瓦は主にＳＫ48から出土している。そのうち、軒桟瓦（319～321）・軒丸瓦（318）を図示した。319は平瓦部に３子葉の中心飾りと２反転の唐草紋を配置したものである。320・321も平瓦部は同様の文様が配置され、丸瓦部には左巻巴紋と珠紋12個が配置されている。318も同様の紋様が配置されている。

〔註〕

（１）藤澤良祐ほか『瀬戸市歴史民俗資料館 研究紀要Ⅵ』 瀬戸市歴史民俗資料館 1987年
藤澤良祐ほか『瀬戸市歴史民俗資料館 研究紀要Ⅶ』 瀬戸市歴史民俗資料館 1988年
藤澤良祐ほか『瀬戸市歴史民俗資料館 研究紀要Ⅷ』 瀬戸市歴史民俗資料館 1989年
（２）赤羽一郎・中野晴久「生産地における編年について」『全国シンポジウム　中世常滑焼をおって　資料集』日本福祉大学知多半島総合研究所　1994年
（３）伊藤裕偉「中世南伊勢系の土師器に関する一試論」『Ｍｉｅｈｉｓｔｏｒｙ』vol. 1　三重歴史文化研究会 1990年
伊藤裕偉「南伊勢系土師器の展開と中世土器工人」『研究紀要　第１号』三重県埋蔵文化財センター　1992年

番号	器種		計測値			調整・釉薬等の特徴		色調	口縁部残存率	出土位置	登録番号
			口径	底径	器高	内	外				
1	須恵器	杯身	11.6	7.0	3.8	ロクロナデ	ロクロナデ・ロクロケズリ	灰色	9/12	SK54	055-04
2	須恵器	杯身	11.7		3.7	ロクロナデ	ロクロナデ	灰白・灰色	9/12	SK86	071-04
3	須恵器	杯身	13.0	5.2	4.0	ロクロナデ	ロクロナデ・ロクロケズリ	灰色	5/12	SK86	069-04
4	須恵器	杯身	13.8		3.1	ロクロナデ	ロクロナデ	灰白・灰色	6/12	SK86	071-05
5	須恵器	杯蓋	11.5		4.5	ロクロナデ	ロクロナデ・ロクロケズリ	灰・灰白色	9/12	SK86	071-03
6	須恵器	杯蓋	13.2		4.1	ロクロナデ	ロクロナデ	灰白・灰白色	11/12	SK86	071-02
7	須恵器	杯蓋	12.7		3.7	ロクロナデ	ロクロナデ・ロクロケズリ	灰色	9/12	SK86	069-03
8	須恵器	杯蓋	13.3		4.0	ロクロナデ	ロクロナデ・ロクロケズリ	灰白色	10/12	SK86	071-01
9	須恵器	杯蓋	11.1		2.0	ロクロナデ	ロクロナデ・ロクロケズリ	灰色	6/12	SK86	069-01
10	須恵器	杯蓋	15.0		3.4	ロクロナデ	ロクロナデ・ロクロケズリ	灰白色	2/12	SK86	069-02
11	須恵器	杯蓋	15.2		2.5	ロクロナデ	ロクロナデ・ロクロケズリ	青灰・青灰色	2/12	SK86	087-02
12	須恵器	短頸壺				ロクロナデ	ロクロナデ・ロクロケズリ	灰色	0/12	SK86	070-01
13	須恵器	短頸壺				ナデ・シボリ痕あり	ロクロナデ・ロクロケズリ	灰色	0/12	SK86	070-03
14	須恵器	はそう				ロクロナデ	ロクロナデ・ロクロケズリ	灰白・灰色	0/12	SK86	071-06
15	須恵器	はそう				ロクロナデ	ロクロナデ・ロクロケズリ	灰色	0/12	SK86	070-02
16	須恵器	甕	16.6		28.3	横ナデ・タタキ	横ナデ・タタキ	灰白・灰色	12/12	SK86	076-01
17	須恵器	甕	49.0			ロクロナデ・アテ道具痕	ロクロナデ・タタキ後ナデか	灰色	6/12	SK86	090-01
18	須恵器	甕	22.5			横ナデ・タタキ	横ナデ・タタキ・自然釉	褐灰・青灰色	12/12	SK86	087-01
19	土師器	杯	11.2		3.3	ナデ	オサエか	にぶい橙・灰白色	5/12	SK86	073-05
20	土師器	杯	12.1		3.4	ナデ	ナデ	にぶい橙色	/12	SK86	085-02
21	土師器	杯	12.2		4.4	調整不明瞭		灰白色	1/12	SK86	073-08
22	土師器	杯	12.6		5.1	横ナデ・ナデ	横ナデ・オサエ	浅黄橙色	9/12	SK86	073-07
23	土師器	杯	11.5		3.6	横ナデ・ナデ	横ナデ・オサエ	灰白色	6/12	SK86	073-06
24	土師器	杯	13.2		2.6	横ナデ・ナデ	横ナデ・ナデ	橙・浅黄橙色	2/12	SK86	073-03
25	土師器	杯	12.6		3.0	ナデ	ナデ・オサエ	橙・橙色	6/12	SK86	087-03
26	土師器	杯	13.2		3.6	横ナデ・ナデ	横ナデ・オサエ、	橙色	3/12	SK86	073-04
27	土師器	杯	12.8		3.0	横ナデ・ナデ	横ナデ・ナデ	にぶい橙色	3/12	SK86	072-02
28	土師器	杯	20.0		4.5	横ナデ・ミガキか	横ナデ・ナデ・ケズリか	橙色	3/12	SK86	085-01
29	土師器	杯	19.3		2.0	横ナデ・ナデか	横ナデ・オサエ・ナデ	橙・浅黄橙色	2/12	SK86	073-02
30	土師器	杯	21.8		2.3	横ナデ・ナデ	横ナデ・ヘラケズリ	橙色	10/12	SK86	072-01
31	土師器	杯	23.2		2.1	横ナデ・ナデ	横ナデ・ナデ	浅黄橙色	5/12	SK86	073-01
32	土師器	高杯	11.4	10.2	9.1	横ナデ・工具ナデ・ハケメ5本/1cm	横ナデ・ハケメ5本/1cm・ナデ	明褐灰色	/12	SK86	085-03
33	土師器	高杯		11.2		ナデ・シボリ痕あり	ロクロナデ	灰色	0/12	SK86	069-05
34	土師器	高杯				ナデ	オサエ	浅黄橙色		SK86	085-04
35	土師器	甕	17.2			ナデ・ハケメ6本/1cm	ナデ・ハケメ8本/1cm	灰白・灰黄褐色	4/12	SK86	086-02
36	土師器	甕	17.8			横ナデ・ナデ・ハケメ7本/1cm	横ナデ・ハケメ7本/1cm	浅黄・にぶい黄橙色	4/12	SK86	086-01
37	土師器	甕	17.2			横ナデ・ハケメ5本/1cm・ナデ	横ナデ・ハケメ4～5本/1cm	灰白色・にぶい黄橙色	3/12	SK86	074-01
38	土師器	甕	14.5		19.8	横ナデ・ハケメ5本/1cm・ナデ・ケズリ	横ナデ・ハケメ7本/1cm	淡黄色	11/12	SK86	074-02
39	土師器	甕	14.8		18.6	横ナデ・ハケメ3~4本/1cm・8本/1cm・ケズリ・オサエ	横ナデ・ハケメ4本/1cm・6本/1cm	浅黄橙色	6/12	SK86	075-01
40	土師器	甕	24.2			ナデ・ハケメ4本/1cm・ケズリ	ナデ・ハケメ４本/1cm・5本/1cm	にぶい橙色	12/12	SK86	089-02
41	土師器	甕	29.0			横ナデ・ナデ	横ナデ・ハケメ6本/1cm	にぶい橙黄色	5/12	SK86	088-02
42	土師器	土錘	孔径:0.5重量：18.15(g)				ナデ	浅黄橙色		SK86	072-08
43	土師器	土錘	孔径:0.3重量： 5.13				ナデ	淡黄色		SK86	072-07
44	土師器	土錘	孔径:0.5重量：14.02				ナデ	にぶい黄橙色		SK86	072-05
45	土師器	土錘	孔径:0.4重量：12.29				ナデ	にぶい黄橙色		SK86	072-06
46	土師器	土錘	孔径:0.5重量：18.15				ナデ	にぶい黄橙色		SK86	072-03
47	土師器	土錘	孔径:0.4重量：17.60				ナデ	にぶい黄橙色		SK86	072-04

第１表　出土遺物観察表（１）

番号	器種		計測値			色調 釉薬	口縁部残存率	出土位置	調整		備考	登録番号
			口径	底径	器高				内	外		
48	陶器	皿	11.8	6.8	2.4	灰釉＋鉄釉	1/12	SD 2	ロクロナデ	ロクロナデ・ロクロケズリ		005-05
49	陶器	天目茶椀	11.5	4.0	7.7	鉄釉	3/12	SD 2	ロクロナデ	ロクロナデ・ロクロケズリ		005-01
50	陶器	天目茶椀		4.0		鉄釉	0/12	SD 2	ロクロナデ	ロクロナデ・ロクロケズリ		005-03
51	陶器	天目茶椀		3.5		鉄釉	0/12		ロクロナデ	ロクロナデ・ロクロケズリ		005-02
52	陶器	擂鉢	44.2			鉄釉	2/12	SD 2	ロクロナデ・ハケメ4本/1cm	ロクロナデ・ロクロケズリ		004-02
53	陶器	擂鉢	13.4			鉄釉	0/12	SD 2	ロクロナデ・ハケメ3本/1cm	ロクロケズリ		005-06
54	土師器	皿	8.2	7.4	2.0	灰白色	3/12	SD 2	ナデ	ナデ・オサエ		003-04
55	土師器	皿	10.0		1.8	灰白色	2/12	SD 2	横ナデ・ナデ	横ナデ・オサエ・ナデ		003-05
56	土師器	皿	9.0		1.6	灰白色	2/12	SD 2	横ナデ・ナデ	オサエ		005-04
57	土師器	羽釜	33.0	47.4(鍔径)		灰白色	2/12	SD 2	横ナデ・ナデ・ハケメ5本/1cm	横ナデ・ナデ・ハケメ5本/1cm		004-01
58	土師器	羽釜	36.5			浅黄橙色	2/12	SD 2	横ナデ・ナデ	横ナデ・ナデ・ハケメ9本/1cm	外面底部にスス付着	002-03
59	土師器	茶釜	26.2			にぶい黄橙色	1/12	SD 2	ナデ	ナデ・ハケメ6本/1本		003-06
60	土師器	茶釜	15.1			にぶい橙色	2/12	SD 2	ナデ・工具ナデ・ハケメ5本/1本	ナデ・ハケメ本/1本・ナデ・ハケメ9本/1cm		003-03
61	土師器	鍋	21.2			灰白色	2/12	SD 2	横ナデ・オサエ後ナデ	横ナデ・ナデ		003-02
62	土師器	鍋	37.1			黒褐色	3/12	SD 2	ナデ・ケズリ	ナデ・ハケメ5本/1本		001-01
63	土師器	鍋	28.0			灰白色	3/12	SD 2	ナデ・工具ナデ・ケズリ	ナデ・ハケメ6本/1本		002-02
64	土師器	鍋	19.1			灰褐色	2/12	SD 2	ナデ・ケズリ	ナデ・ケズリ・ハケメ9本/1cm	外面底部にスス付着	003-01
65	土師器	鍋	33.3			灰白・灰褐色	1/12	SD 2	ナデ	ナデ・ケズリ		002-01
66	土師器	鍋	32.4			灰褐色	2/12	SD 2	ナデ・工具ナデ	ナデ・ハケメ4本/1本		001-02
67	土師器	鍋	38.7	13.5		にぶい橙色	6/12	SD 2	横ナデ・ナデ・ケズリ	ナデ・ケズリ・ハケメ5～6本/1本		006-01
68	土師器	鍋	5.0		0.9	にぶい橙色	12/12	SK34		オサエ		057-05
69	土師器	鍋	7.4		1.0	にぶい橙色	8/12	SK34	横ナデ・ナデ	横ナデ・オサエ		057-06
70	陶器	水注	9.6	4.4		鉄釉	6/12	SK11	ロクロナデ	ロクロナデ・底部糸切り		053-05
71	陶器	壷		11.0		灰釉		SE76	ロクロナデ	ロクロナデ・ロクロケズリ		078-02
72	陶器	天目茶椀				鉄釉	0/12	SE76	ロクロナデ	ロクロナデ		078-01
73	陶器	天目茶椀						SE76	ロクロナデ	ロクロナデ		054-04
74	土師器	皿	7.9		2.1	浅黄橙色	6/12	SE76	ナデ	ナデ		054-02
75	土師器	鍋	23.5			にぶい黄橙色	6/12	SE76	横ナデ・ナデ・ヘラケズリ	横ナデ・ハケメ6～7本/1cm・ケズリ		077-01
76	土師器	鍋	42.8		11.0	にぶい橙色	6/12	SK65	横ナデ・ナデ・工具ナデ	横ナデ・ハケメ7本/1cm・ケズリ		045-01
77	陶器	火鉢	18.8		7.8	淡赤橙・褐灰・灰褐色		SK65	オサエ・ナデ	オサエ・ナデ		049-01
78	土師器	台付椀	8.2	3.6	3.6	浅黄橙色	12/12	SD90	横ナデ・ナデ	横ナデ・ナデ・オサエ		066-04
79	土師器	台付椀	7.8	4.2	3.1	灰白色	12/12	SD90	横ナデ・ナデ	横ナデ・ナデ・オサエ		066-03
80	土師器	蓋	11.6	6.0	1.8	にぶい橙色	2/12	SD90	横ナデ・ハケメ6本/1cm	横ナデ・ナデ・オサエ		066-02
81	土師器	皿	14.3	8.4	2.0	灰白色	6/12	SD90	横ナデ・ナデ	横ナデ・ナデ・オサエ		065-01
82	土師器	皿	9.8	6.4	1.8	淡黄橙色	6/12	SD90	ナデ	ナデ・オサエ		065-06
83	土師器	皿	9.0	5.0	2.0	浅黄橙色	2/12	SD90	ナデ	ナデ・オサエ		066-06
84	土師器	皿	8.5	6.0	1.5	淡橙色	6/12	SD90	ナデ	ナデ・オサエ	口縁部にスス付着	065-03
85	土師器	皿	7.5	3.8	1.5	にぶい橙色	6/12	SD90	ナデ	ナデ	底部にスス付着	066-05
86	土師器	皿	6.5	4.2	1.1	にぶい橙色	6/12	SD90	ナデ	ナデ・オサエ		064-01
87	土師器	皿	8.5	6.0	1.5	淡橙色	6/12	SD90	ナデ	ナデ・オサエ		065-05
88	土師器	皿	10.0	7.0	1.6	浅黄橙色	11/12	SD90	ナデ	ナデ・オサエ	口縁部にスス付着	064-07
89	土師器	皿	10.2	7.0	1.7	浅黄橙色	7/12	SD90	横ナデ・ナデ	横ナデ・ナデ・オサエ		064-06
90	土師器	皿	9.0	6.3	1.4	浅黄橙色	6/12	SD90	ナデ	ナデ・オサエ	口縁部にスス付着	064-05
91	土師器	皿	8.5	5.4	1.4	浅黄橙色	9/12	SD90	ナデ	横ナデ・ナデ・オサエ	底部に穿孔	064-08
92	土師器	皿	8.0	6.6	1.2	灰白色	12/12	SD90	横ナデ・ナデ	横ナデ・ナデ・オサエ		065-02
93	土師器	皿	8.0	5.4	1.4	にぶい橙色	12/12	SD90	ナデ	ナデ・オサエ		065-08
94	土師器	皿	10.0	5.0	3.2	にぶい褐色	5/12	SD90	ナデ	オサエ		067-02
95	土師器	皿	7.0	4.0	1.5	にぶい橙色	4/12	SD90	ナデ	オサエ		065-07
96	土師器	皿	6.4	3.8	1.6	にぶい橙色	6/12	SD90	ナデ	ナデ・オサエ		065-04
97	土師器	皿	6.2	3.6	1.4	にぶい橙色	12/12	SD90	ナデ	ナデ・オサエ		064-02
98	土師器	皿	6.2	4.0	1.5	橙色	6/12	SD90	ナデ	ナデ・オサエ		064-03
99	土師器	皿	6.5	4.0	1.4	にぶい橙色	12/12	SD90	ナデ	ナデ・オサエ		066-01
100	土師器	皿	6.3	4.0	1.3	橙色	6/12	SD90	ナデ	ナデ・オサエ		064-04
101	土師器	茶釜	12.5			浅黄橙色	11/12	SD90	横ナデ・ナデ	横ナデ・ハケメ7本/1cm・ナデ		067-04
102	土師器	茶釜	13.6			浅黄橙色	12/12	SD90	横ナデ・ナデ	横ナデ・ハケメ6～8本/1cm		068-01
103	土師器	鍋	17.2			にぶい橙色	4/12	SD90	横ナデ・ナデ	横ナデ・ナデ・ケズリ		067-01
104	土師器	鍋	26.6			浅黄橙色	2/12	SD90	横ナデ・ナデ	横ナデ・ハケメ6～7本/1cm・ケズリ		067-03
105	土師器	鍋	26.5			にぶい橙色	11/12	SD90	ナデ	横ナデ・ハケ後オサエ・ケズリ		063-02
106	土師器	鍋	26.6			にぶい橙色	3/12	SD90	横ナデ・工具ナデ	横ナデ・ハケメ5～6本/1cm・ケズリ		063-01
107	陶器	皿	12.0	6.8	2.3	灰釉	5/12	SE44	ロクロナデ	ロクロナデ・ロクロケズリ		053-03
108	土師器	蓋	15.8		1.7	浅黄橙色	2/12	SE44	横ナデ・ナデ	横ナデ・ナデ		054-05
109	土師器	皿	9.2		1.5	浅黄橙色	9/12	SE44	横ナデ・ナデ	横ナデ・オサエ		054-01
110	土師器	皿	7.3		1.5	浅黄橙色	6/12	SE44	ナデ	オサエ		054-03
111	土師器	茶釜	26.6			浅黄橙色	3/12	SE44	横ナデ・ナデ	横ナデ・ハケメ7本/1cm		038-01
112	陶器	天目茶椀	10.8			鉄釉	1/12	SZ60	ロクロナデ	ロクロナデ・ロクロケズリ		050-03
113	陶器	皿	11.0	5.5	2.0	灰釉		SZ60	ロクロナデ	ロクロナデ・ロクロケズリ		050-02
114	土師器	皿	13.6			浅黄橙色	6/12	SZ60	ナデ	ナデ・ハケメ7本/1cm		049-02
115	土師器	鍋	26.6			灰白・褐灰色	3/12	SZ60	横ナデ・ハケメ10本/1cm	横ナデ・ナデ・工具ナデ・ケズリ		049-03
116	陶器	天目茶椀	11.6	5.0	5.9	鉄釉	6/12	SE12	ロクロナデ	ロクロナデ・ロクロケズリ		014-02
117	陶器	天目茶椀	11.0	4.8	7.5	鉄釉	4/12	SE12	ロクロナデ	ロクロナデ・ロクロケズリ		014-03
118	陶器	天目茶椀	4.6			鉄釉		SE12	ロクロナデ	ロクロナデ・ロクロケズリ		014-01

第２表　出土遺物観察表（２）

番号	器種		計測値			色調 釉薬	口縁部残存率	出土位置	調整		備考	登録番号
			口径	底径	器高				内	外		
119	陶器	天目茶椀	11.0			鉄釉	2/12	SE12	ロクロナデ	ロクロナデ・ロクロケズリ		010-04
120	陶器	丸椀	10.0	5.0	7.5	灰釉	3/12	SE12	ロクロナデ	ロクロナデ・ロクロケズリ		011-04
121	陶器	丸椀	9.0	4.4	5.6	鉄釉	6/12	SE12	ロクロナデ	ロクロナデ・ロクロケズリ		010-01
122	陶器	丸椀	9.5	4.5	6.3	鉄釉	6/12	SE12	ロクロナデ	ロクロナデ・ロクロケズリ		010-03
123	磁器	染付広東椀	8.7	5.0	3.2	透明釉	2/12	SE12	ロクロナデ	ロクロナデ・ロクロケズリ	呉須絵	015-02
124	磁器	染付小椀	7.0	3.5	5.2	透明釉	4/12	SE12	ロクロナデ	ロクロナデ・ロクロケズリ	呉須絵	012-03
125	陶器	皿	13.5	7.0	3.5	灰釉	2/12	SE12	ロクロナデ	ロクロナデ・ロクロケズリ		010-05
126	陶器	皿	14.0	7.5	3.4	灰釉	2/12	SE12	ロクロナデ	ロクロナデ・ロクロケズリ		010-02
127	陶器	皿	12.5	7.4	2.5	灰釉	9/12	SE12	ロクロナデ	ロクロナデ・ロクロケズリ		014-06
128	陶器	皿	10.5	7.0	2.0	長石釉	2/12	SE12	ロクロナデ	ロクロナデ・ロクロケズリ		010-06
129	陶器	皿	12.2	7.8	2.1	鉄釉	2/12	SE12	ロクロナデ	ロクロナデ・ロクロケズリ		014-05
130	陶器	皿	11.2	3.4	4.6	灰釉＋鉄釉	3/12	SE12	ロクロナデ	ロクロナデ・ロクロケズリ		015-01
131	陶器	皿	12.0	5.0	4.7	灰釉	2/12	SE12	ロクロナデ	ロクロナデ・ロクロケズリ		012-01
132	陶器	皿	12.0	4.0	4.7	灰釉	4/12	SE12	ロクロナデ	ロクロナデ・ロクロケズリ		012-04
133	陶器	香炉				鉄釉	5/12	SE12	ロクロナデ	ロクロナデ・ロクロケズリ		013-03
134	陶器	香炉	12.0		7.6	鉄釉	3/12	SE12	ロクロナデ	ロクロナデ・ロクロケズリ		011-05
135	陶器	香炉	10.6	8.0		灰釉	4/12	SE12	ロクロナデ	ロクロナデ・ロクロケズリ		013-04
136	陶器	香炉	11.0		6.7	鉄釉	5/12	SE12	ロクロナデ	ロクロナデ・ロクロケズリ		012-02
137	陶器	徳利	4.7			錆釉		SE12	ロクロナデ	ロクロナデ・ロクロケズリ		009-02
138	土師器	仏飯具	8.0	4.5	5.9	灰釉	2/12	SE12	ロクロナデ	ロクロナデ・ロクロケズリ		011-01
139	陶器	仏飯具	7.5			灰釉	4/12	SE12	ロクロナデ	ロクロナデ・ロクロケズリ		011-02
140	陶器	ひょうそく	4.5	2.5	2.2	灰釉	8/12	SE12	ロクロナデ	ロクロナデ		013-05
141	陶器	鉢				長石釉＋鉄釉		SE12	ロクロナデ	ロクロナデ	笠原鉢	014-04
142	陶器	擂鉢	33.2			鉄釉	2/12	SE12	ロクロナデ	ロクロナデ・ロクロケズリ		018-02
143	陶器	擂鉢	27.2	11.4	9.8	錆釉	5/12	SE12	ロクロナデ・ハケメ5本/1cm	ロクロナデ・ロクロケズリ	内面一部にスス付着	008-01
144	陶器	擂鉢	37.2			鉄釉	3/12	SE12	ロクロナデ・ハケメ4/本cm	ロクロナデ・ロクロケズリ		018-01
145	陶器	擂鉢	33.8	14.6	15.9	錆釉	3/12	SE12	ロクロナデ・ハケメ3～4/cm	ロクロナデ・ロクロケズリ		007-01
146	陶器	擂鉢	35.6	14.0	15.2	鉄釉	10/12	SE12	ロクロナデ・ハケメ3～4/cm	ロクロナデ・ロクロケズリ		020-01
147	陶器	擂鉢	33.6			錆釉	3/12	SE12	ロクロナデ・ハケメ4本/1cm	ロクロナデ・ロクロケズリ	内面に「大」のスタンプ紋	009-01
148	陶器	ねり鉢	28.6			灰釉	2/12	SE12	ロクロナデ	ロクロナデ・オサエ	常滑産	013-01
149	陶器	火鉢	11.0	17.8(体部径)		鉄釉	5/12	SE12	ロクロナデ	ロクロナデ		013-02
150	陶器	火鉢	33.0				12/12	SE12	オサエ・ナデ	ナデ・底部未調整		019-01
151	土師器	鍋	36.0			にぶい橙・灰褐色	1/12	SE12	横ナデ・ナデ・ケズリ・ハケメ7本/1本	横ナデ・ナデ・ケズリ		016-02
152	土師器	鍋	37.0			にぶい橙色	2/12	SE12	ナデ・ケズリ	横ナデ・ナデ・ケズリ		016-01
153	土師器	鍋	36.0			にぶい橙色	1/12	SE12	横ナデ	横ナデ		016-03
154	土師器	鍋	37.0			にぶい橙色	1/12	SE12	横ナデ	横ナデ		017-01
155	土師器	鍋	23.5			にぶい橙色	1/12	SE12	横ナデ・ハケメ7本/1cm	横ナデ・ハケメ6本/1cm		017-02
156	土師器	皿	9.8			にぶい橙色	6/12	SE12	ナデ	オサエ・ナデ		017-03
157	土師器	皿	9.5		1.1	にぶい橙色	4/12	SE12	横ナデ・ナデ	横ナデ・オサエ・ナデ		017-04
158	土師器	皿	10.0			にぶい橙色	2/12	SE12	横ナデ・ナデ	横ナデ・オサエ・ナデ		017-05
159	土師器	皿	8.0		1.0	橙・にぶい橙色	3/12	SE12	ナデ	オサエ・ナデ		017-06
160	土師器	ミニチュア製品	4.5	2.6	2.1	にぶい黄橙色	2/12	SE12	ナデ	ナデ		015-03
161	陶器	天目茶椀	10.8			鉄釉	3/12	SK17	ロクロナデ	ロクロナデ・ロクロケズリ		042-03
162	陶器	天目茶椀	12.0			鉄釉	6/12	SK17	ロクロナデ	ロクロナデ		077-03
163	陶器	小椀	6.0	2.9	4.1	灰釉	3/12	SK17	ロクロナデ	ロクロナデ・ロクロケズリ		043-05
164	陶器	丸椀	9.4	5.0	7.1	灰釉	3/12	SK17	ロクロナデ	ロクロナデ・ロクロケズリ		043-01
165	陶器	腰錆茶椀	10.1			灰釉＋鉄釉	4/12	SK17	ロクロナデ	ロクロナデ		042-04
166	陶器	皿	12.0	7.0	3.0	灰釉	3/12	SK17	ロクロナデ	ロクロナデ・ロクロケズリ		043-03
167	土師器	皿	7.8		1.2	橙・にぶい橙色	10/12	SK17	横ナデ・ナデ	横ナデ・オサエ・ナデ		044-01
168	土師器	茶釜	24.2			明褐灰・にぶい橙色	3/12	SK17	横ナデ・ナデ	横ナデ・ハケメ7本/1cm		041-02
169	陶器	筒形椀	10.3	5.2	6.8	灰釉	2/12		ロクロナデ	ロクロナデ・ナデ・ロクロケズリ		032-04
170	陶器	片口椀	9.0	3.7	5.0	灰釉	9/12	SK38	ロクロナデ	ロクロナデ・ロクロケズリ		038-03
171	陶器	加工円盤	(長)2.1	(短)2.0		灰釉		SK38				033-05
172	土師器	鍋	36.7			にぶい橙色	0/12	SK38	横ナデ・ナデ・ハケメ10本/1cm	横ナデ・オサエ・ナデ		033-03
173	土師器	鍋	38.6			にぶい黄橙色	6/12	SK37	横ナデ・オサエ・ナデ	横ナデ・オサエ・ナデ・スス付着		033-02
174	土師器	皿	8.8	1.1		灰白・淡黄色	3/12	SK37	ナデ	オサエ・ナデ		033-04
175	磁器	小椀	5.1			透明釉	3/12	SD89	ロクロナデ	ロクロナデ	呉須絵	062-03
176	陶器	丸椀	9.0	3.9	4.7	鉄釉	11/12	SD89	ロクロナデ	ロクロナデ・ロクロケズリ		039-03
177	陶器	皿	12.0	3.9	2.3	灰釉	9/12	SD89	ロクロナデ	ロクロナデ・ナデ・ロクロケズリ		039-02
178	陶器	皿	10.3	7.8	1.5	灰釉	2/12	SD89	ロクロナデ	ロクロナデ・ロクロケズリ		061-06
179	磁器	花瓶	7.3			上野釉		SD89	ロクロナデ	ロクロナデ・ロクロケズリ		039-04
180	陶器	擂鉢	35.2	13.6	14.3	錆釉	6/12	SD89	ロクロナデ・スリメ5本/1cm	ロクロナデ・ロクロケズリ・底部糸切り		040-01
181	陶器	擂鉢	41.0			鉄釉	2/12	SD89	ロクロナデ・スリメ4本/1cm	ロクロナデ・ロクロケズリ		078-05
182	土師器	皿	8.3		1.5	橙色	4/12	SD89	オサエ・ナデ	ナデ		044-04
183	土師器	皿	9.0		1.1	にぶい橙色	3/12	SD89	オサエ・ナデ	ナデ		044-03
184	土師器	皿	10.0		1.4	にぶい橙色	2/12	SD89	横ナデ・ナデ	横ナデ・ナデ		044-02
185	土師器	鍋	44.0			灰白・橙色	2/12	SD89	横ナデ・ナデ	横ナデ・ナデ・オサエ		041-01
186	土師器	十能	12.5	12.0	11.0	にぶい橙色	6/12	SD89	横ナデ・ハケメ6本/1cm	横ナデ・ハケメ4本/1cm		079-02
187	土師器					浅黄橙色	2/12	SD89	ハケメ10本/1cm	横ナデ・ハケメ10本/1cm・ケズリ		041-04
188	陶器	びんだらい	長:12.8	短:3.6	3.6	灰釉	2/12	SD83	ロクロナデ	ロクロナデ		046-05
189	陶器	皿	11.0	5.9	2.3	白磁	6/12	SD83	ロクロナデ	ロクロナデ		053-04

第３表　出土遺物観察表（３）

番号	器種		計測値			色調 釉薬	口縁部残存率	出土位置	調整		備考	登録番号
			口径	底径	器高				内	外		
190	陶器	小椀	6.7	3.6	3.3	灰釉	10/12	SK88	ロクロナデ	ロクロナデ・ロクロケズリ		061-05
191	陶器	丸椀	7.6	3.9	4.1	灰釉	3/12	SK88	ロクロナデ	ロクロナデ・ロクロケズリ		061-03
192	陶器	腰錆茶椀	9.0	4.0	5.1	灰釉＋鉄釉	6/12	SK88	ロクロナデ	ロクロナデ・ロクロケズリ		061-02
193	陶器	壷		5.0		灰釉		SK88	ロクロナデ	ロクロナデ・底部糸切り痕		061-04
194	磁器	御酒徳利		3.4		透明釉		SK88		ロクロナデ・ロクロケズリ	呉須絵	062-02
195	陶器	こね鉢		16.0		鉄釉	2/12	SK88	ロクロナデ	ロクロナデ・ロクロケズリ		077-04
196	土師器	皿	7.7	3.8	1.1	にぶい橙色	5/12	SK88	横ナデ・ナデ	横ナデ・オサエ・ナデ		062-01
197	土師器	鍋	37.2			にぶい橙色	4/12	SK88	ナデ・ケズリ	ナデ・ケズリ		039-01
198	石製品	石臼	径：25.4			灰白色		SK88				060-01
199	磁器	椀		4.8		呉須絵			ロクロナデ	ロクロナデ・ロクロケズリ		056-01
200	陶器	筒形椀	7.8			灰釉＋鉄釉	1/12	SD27	ロクロナデ	ロクロナデ		057-02
201	銭貨		2.0(径)					SK45			皇宋通宝	022-03
202	陶器	鍋	20.6	11.6	6.4	灰釉	9/12	SK33	ロクロナデ	ロクロナデ・ロクロケズリ・スス付着		055-01
203	陶器	甕		13.7		灰釉＋鉄釉		SK39	ロクロナデ	ロクロナデ		050-01
204	磁器	皿	12.0	6.7	2.8	鉄釉	2/12	SK33	ロクロナデ	ロクロナデ・ロクロケズリ	呉須絵	043-04
205	陶器	天目茶椀	12.5	9.5	5.7	鉄釉	6/12	SK19	ロクロナデ	ロクロナデ・ロクロケズリ		042-01
206	陶器	蓋	(ツマミ径)1.1	3.0	1.6	鉄釉		SK19	ロクロナデ	ロクロナデ		044-05
207	陶器	甕	11.2			橙・灰赤色		SK19	ナデ	ナデ	常滑窯産	051-01
208	土師器	茶釜	14.5			浅黄橙・にぶい橙色	5/12	SK19	ナデ	ナデ・ハケメ8本/1㎝		051-02
209	土師器	茶釜	26.2			にぶい橙色	3/12	SK19	横ナデ・ナデ・オサエ・スス付着	横ナデ・ハケメ6～7本/1㎝		037-01
210	陶器	鍋	36.7			にぶい橙色	4/12	SK19	ナデ・ケズリ	ナデ・ハケメ10本/1㎝・ケズリ		052-01
211	陶器	鍋	20.6			にぶい黄橙色	5/12	SK19	横ナデ・オサエ・ケズリ	横ナデ・ハケメ7本/1㎝・ケズリ		038-02
212	土師器	皿	10.7	7.0	1.5	灰白・浅黄橙色	3/12	SK19	ナデ	ナデ		051-03
213	陶器	天目茶椀	11.5			鉄釉	2/12	SD46	ロクロナデ	ロクロナデ		053-02
214	陶器	小椀	6.8	3.1	3.7	灰釉	3/12	SD46	ロクロナデ	ロクロナデ・ロクロケズリ		054-06
215	陶器	壷	13.2			にぶい褐色	1/12	SD46	ロクロナデ・オサエ・ナデ	ロクロナデ・ナデ・工具ナデ		053-01
216	陶器	香炉	11.2	9.8		鉄釉	2/12	SK50	ロクロナデ	ロクロナデ・ロクロケズリ		056-03
217	陶器	丸椀	11.2	5.2	6.3	鉄釉	3/12	SK55	ロクロナデ	ロクロナデ・ロクロケズリ		057-01
218	陶器	小椀	6.8	3.7	3.8	灰釉	2/12	SK55	ロクロナデ	ロクロナデ・ロクロケズリ		057-03
219	陶器	皿	13.0	6.7	3.5	灰釉＋緑釉	6/12	SK55	ロクロナデ	ロクロナデ・ロクロケズリ		056-04
220	陶器	皿	10.8	4.2	4.4	灰釉	2/12	SK55	ロクロナデ	ロクロナデ・ロクロケズリ	呉須絵	056-02
221	陶器	仏飯具	6.9	4.9	4.3	灰釉	4/12	SK55	ロクロナデ・ナデ	ロクロナデ		057-04
222	土師器	皿	8.8		1.6	にぶい橙色	3/12	SK55	横ナデ・ナデ	横ナデ・オサエ		057-07
223	土師器	茶釜	11.0			にぶい橙色	3/12	SK55	横ナデ・工具ナデ	横ナデ・ハケメ5本/1㎝・スス付着		055-03
224	土師器	鍋	37.0			にぶい橙色	2/12	SK55	横ナデ・ナデ・ケズリ	横ナデ・ハケメ8本/1㎝・ケズリ・スス付着		055-02
225	銭貨		(径)24.0					SD69			寛永通宝	044-06
226	銭貨		(径)24.0					SD69			寛永通宝	044-07
227	銭貨		(径)24.0					SD69			寛永通宝	044-08
228	陶器	丸椀	10.5	4.8	6.2	灰釉	8/12	SD69	ロクロナデ	ロクロナデ・ロクロケズリ		043-02
229	陶器	天目茶椀		4.6		鉄釉		SD69	ロクロナデ	ロクロナデ		042-02
230	瓦器	火鉢？	(25.8)			暗灰色		SD84	ナデ	ナデ		048-01
231	陶器	鉢	25.0					SD84	ロクロナデ	ロクロナデ		046-04
232	陶器	丸椀	9.2	4.0	5.8	鉄釉	2/12	SK48	ロクロナデ	ロクロナデ・ロクロケズリ		034-04
233	陶器	丸椀		5.5		鉄釉		SK48	ロクロナデ	ロクロナデ・ロクロケズリ		034-05
234	磁器	端反椀	10.8	4.3	6.1	透明釉	8/12	SK48	ロクロナデ	ロクロナデ・ロクロケズリ	呉須絵	031-02
235	磁器	端反椀	10.6	4.0	5.7	透明釉	5/12	SK48	ロクロナデ	ロクロナデ	呉須絵	031-01
236	磁器	端反椀	8.8			透明釉	4/12	SK48	ロクロナデ	ロクロナデ	呉須絵	029-04
237	磁器	端反椀	11.0	4.0	5.8	透明釉	4/12	SK48	ロクロナデ	ロクロナデ	呉須絵	030-01
238	磁器	端反椀	8.6	3.0	4.3	透明釉	8/12	SK48	ロクロナデ	ロクロナデ	呉須絵	029-01
239	陶器	腰錆茶椀		4.4		灰釉＋鉄釉		SK48	ロクロナデ	ロクロナデ・ロクロケズリ		036-03
240	陶器	平椀	12.2			透明釉		SK48	ロクロナデ	ロクロナデ	呉須絵	034-03
241	陶器	平椀	9.3	3.3	3.9	透明釉	2/12	SK48	ロクロナデ	ロクロナデ	呉須絵	028-06
242	磁器	小椀	9.1	4.0	2.8	透明釉	4/12		ロクロナデ	ロクロナデ		030-04
243	陶器	小椀	5.7	2.2	3.8	灰釉	3/12	SK48	ロクロナデ	ロクロナデ・ロクロケズリ		028-05
244	磁器	猪口	5.6			透明釉		SK48	ロクロナデ	ロクロナデ	呉須絵	029-02
245	磁器	皿	25.2		3.6	灰釉＋鉄釉		SK48	ロクロナデ	ロクロナデ・ロクロケズリ		035-02
246	陶器	皿		7.4		透明釉		SK48	ロクロナデ	ロクロナデ	呉須絵	030-03
247	陶器	鉢		5.8		灰釉		SK48	ロクロナデ	ロクロナデ・ロクロケズリ		035-04
248	陶器	鉢						SK48	ロクロナデ	ロクロナデ	三島手	034-06
249	陶器	灯明皿	10.4	3.9	1.6	灰釉	2/12	SK48	ロクロナデ	ロクロナデ・ロクロケズリ		028-02
250	陶器	灯明皿	10.1	4.9	2.1	鉄釉	3/12	SK48	ロクロナデ	ロクロナデ・底部糸切り		036-05
251	陶器	灯明皿	11.4	4.9	2.6	鉄釉		SK48	ロクロナデ・ロクロケズリ後ナデ	ロクロナデ・ロクロケズリ後ナデ		033-01
252	陶器	ミニチュア製品？			4.3	透明釉		SK48	ロクロナデ	ロクロナデ	呉須絵	029-06
253	陶器	餌鉢	4.0	3.2	2.4	灰釉	2/12	SK48	ロクロナデ	ロクロナデ		036-04
254	磁器	御酒徳利	1.6			透明釉	6/12	SK48	ロクロナデ	ロクロナデ	呉須絵	029-05
255	磁器	仏飯具	5.9	2.1	4.9	透明釉	5/12	SK48	ロクロナデ	ロクロナデ	呉須絵	030-02
256	陶器	蓋	8.5		2.3	灰釉	3/12	SK48	ロクロナデ	ロクロナデ		028-03
257	陶器	蓋	4.9			上野釉	2/12	SK48	ロクロナデ	ロクロナデ		028-04
258	陶器	蓋	19.0	(4.5ツマミ径)	4.0	灰釉	6/12	SK48	ロクロナデ	ロクロナデ・ロクロケズリ		023-01
259	陶器	片口鉢	16.0			灰釉	0/12	SK48	ロクロナデ	ロクロナデ		036-01
260	陶器	鉢	19.8			灰釉	0/12	SK48	ロクロナデ	ロクロナデ		035-03

第4表　出土遺物観察表(4)

番号	器種		計測値			色調 釉薬	口縁部残存率	出土位置	調整		備考	登録番号
			口径	底径	器高				内	外		
261	陶器	火鉢？	27.0				1/12	SK48	ロクロナデ	ロクロナデ・ナデ		023-03
262	陶器	鉢	31.0			鉄釉	2/12	SK48	ロクロナデ	ロクロナデ		024-01
263	陶器	鉢	25.0			灰釉	1/12	SK48	ロクロナデ	ロクロナデ		034-02
264	陶器	火鉢		12.1		灰釉		SK48	ロクロナデ	ロクロナデ		035-06
265	陶器	火鉢	18.0			鉄釉	2/12	SK48	ロクロナデ	ロクロナデ		034-01
266	陶器	壷	12.0	9.0	14.8	灰釉		SK48	ロクロナデ	ロクロナデ・ロクロケズリ		022-02
267	土師器	鍋	38.0			橙色	2/12	SK48	横ナデ・工具ナデ	横ナデ・ケズリ・ハケメ5本/1cm		026-02
268	土師器	鍋	28.2			浅黄橙色	2/12	SK48	横ナデ・ナデ	横ナデ・オサエ		026-03
269	石製品	砥石	(長)5.6	(短)2.9				SK48				036-07
270	陶器	加工円盤	3.2(長)	5.6(短)		鉄釉		SK48				024-04
271	陶器	加工円盤	4.0(長)	3.2(短)		鉄釉		SK48				024-02
272	陶器	加工円盤	5.6(長)	5.0(短)		鉄釉		SK48				024-03
273	陶器	平椀	14.8	6.1	6.1	鉄釉	5/12	SK38	ロクロナデ・ナデ	ロクロナデ・オサエ後ナデ		032-03
274	陶器	蓋	16.3			灰釉＋鉄釉	2/12	SK42	ロクロナデ	ロクロナデ・ロクロケズリ	京・信楽系	032-01
275	陶器	片口椀	19.0	6.0	8.5	灰釉	4/12	SK42	ロクロナデ	ロクロナデ・ロクロケズリ		022-01
276	陶器	皿	13.0	7.3	4.3	灰釉＋鉄釉	3/12	SK42	ロクロナデ・ナデ	ロクロナデ・ロクロケズリ		084-01
277	陶器	植木鉢	16.2	9.8	15.4	灰釉	3/12	SK42	ロクロナデ・ナデ	ロクロナデ・ロクロケズリ		084-02
278	陶器	ぴんだらい	長:9.8	短:2.8	3.8	灰釉＋鉄釉		SK42	ロクロナデ・ナデ	ロクロナデ・ナデ		036-06
279	土師器	皿	6.8		1.0	にぶい橙色	2/12	SK42	ナデ	ナデ		027-02
280	陶器	柴付筒形椀	8.3	3.6	6.3	灰釉	6/12	SK43	ロクロナデ	ロクロナデ・ロクロケズリ		032-02
281	磁器	椀	9.5	4.3	5.4	透明釉	8/12	SK63	ロクロナデ	ロクロナデ・ロクロケズリ	呉須絵	046-01
282	磁器	平椀	11.8	4.4	3.5	透明釉	6/12	SK63	ロクロナデ	ロクロナデ・ロクロケズリ		046-02
283	陶器	こね鉢		18.2		灰釉		SK63	ロクロナデ	ロクロナデ・ロクロケズリ		046-03
284	陶器	擂鉢	39.6	18.0	14.5	錆釉	3/12	SK63	ロクロナデ・スリメ5本/1cm	ロクロナデ・ロクロケズリ・底部糸切り		047-01
285	陶器	皿	12.4			灰釉＋鉄釉	2/12	SK41	ロクロナデ	ロクロナデ・ロクロケズリ		035-05
286	磁器	植木鉢？	6.0			透明釉	2/12	SK41	ロクロナデ	ロクロナデ	呉須絵	029-07
287	陶器	片口鉢	15.8	6.5	7.0	灰釉	4/12	SK41	ロクロナデ	ロクロナデ・ロクロケズリ		035-01
288	陶器	火鉢？	21.4		6.2		2/12	SK41	ロクロナデ	ロクロナデ・ナデ		023-02
289	陶器	徳利		7.8		鉄釉		SK41	ロクロナデ	ロクロケズリ		028-01
290	陶器	擂鉢	37.0			鉄釉	9/12	SK41	ロクロナデ・スリメ3本/1cm	ロクロナデ・ロクロケズリ		083-01
291	陶器	ねり鉢	26.6	15.3	14.2	灰釉	2/12	SK41	ロクロナデ	ロクロナデ・ロクロケズリ		021-01
292	石製品	石臼？	28.0(径)					SK41				025-01
293	土師器	鍋	38.9			にぶい橙色	2/12	SK41	横ナデ・ナデ	横ナデ・オサエ・ケズリ		026-01
294	陶器	甕		10.8		明赤褐色		SK41	ナデ	ロクロナデ・ナデ		082-01
295	石製品	砥石	5.2(長)	5.0(短)		灰白色		SK41				025-02
296	磁器	丸椀	8.2	3.0	4.5	透明釉	2/12	SK49	ロクロナデ	ロクロナデ	呉須絵	029-03
297	陶器	皿	11.5	6.4	2.5	灰釉	5/12	SK49	ロクロナデ	ロクロナデ・ロクロケズリ		036-02
298	土師器	鍋	20.2			浅黄橙色	1/12	SK72	横ナデ・ナデ・ケズリ	横ナデ・ハケメ5本/1cm・ケズリ		077-02
299	土師器	鍋	21.5		7.7	淡黄色	8/12	SK73	横ナデ・ケズリ	横ナデ・オサエ・ケズリ	外面底部にスス付着	079-01
300	土師器	鍋	24.5			灰白色	3/12	SK75	横ナデ・ナデ・ケズリ・スス付着	横ナデ・ハケメ4～5本/1cm・ケズリ		061-01
301	土師器	鍋	34.0			にぶい橙色	1/12	Pit	ナデ・ケズリ	ナデ・ケズリ		059-03
302	陶器	鎧茶碗	8.0	4.0	6.1	灰釉＋飴釉	2/12	包含層	ロクロナデ	ロクロナデ・ロクロケズリ		059-01
303	磁器	髪油壷	2.5	4.7	8.6	透明釉	12/12	包含層	ロクロナデ	ロクロナデ		058-02
304	陶器	水滴				灰釉		包含層				059-02
305	陶器	擂鉢	32.7	14.0	12.8	鉄釉	2/12	SD27	ナデ・スリメ4本/1cm	ナデ・ケズリ		058-01
306	土師器	茶釜	29.0			にぶい黄橙色	5/12	包含層	横ナデ・ナデ	横ナデ・ハケメ5～6本/1cm		088-01
307	土師器	茶釜	13.0			浅黄橙色	12/12	包含層	横ナデ・ナデ・ハケメ6本/1cmケズリ			089-01
308	木製品	呪符	長:16.4	短:2.9				SD69				092-03
309	木製品	札	長:12.4	短:8.8				SD69				092-01
310	木製品	漆椀		6.0		黒・暗赤色		SD69				092-02
311	木製品	曲物底板	径：17.3　厚さ：0.8～1.0					SE44				094-01
312	木製品	曲物底板	径：22.0　厚さ：0.7					SE71				096-01
313	木製品	曲物底板	径：18.5　厚さ：0.4～0.7					SE76				095-01
314	木製品	箸	最大長：15.4　幅：0.3～0.7					SE76				096-02
315	木製品	曲物	39.0	35.0	31.1			SE44	底部厚み２cm	3箇所にタガの跡		091-01
316	木製品	杭	最大長：518、幅：1.0～4.0					SE76				097-01
317	木製品	下駄	長：21.6　短：9.6					SK80				093-01
318	瓦	軒桟瓦				灰・灰白色		SK48	丸瓦部：左巻巴紋・珠紋　平瓦部：３子葉の中心飾り、２反転の唐草紋			080-01
319	瓦	軒桟瓦				灰・灰白色		SK48	３子葉の中心飾り、２反転の唐草紋			080-03
320	瓦	軒桟瓦				灰色		SK48	３子葉の中心飾り、２反転の唐草紋			081-02
321	瓦	軒丸瓦				灰白色		SK48	左巻巴紋			080-02

第５表　出土遺物観察表（５）

4．結　語

1．ＳＤ２について

東西調査区で確認されたコの字型に調査区内の南側を区画するような状態を呈する溝である。区画された空間からは遺構はまったく確認されなかった。遺物から戦国時代～江戸時代初初頭ごろに機能していたことが想定される。一辺は約120mで、おそらく調査区外で方形にめぐることが予想される。これはいわゆる方形居館と呼ばれるもので、中世前期からこれに類する遺構は存在する。これがいわゆる城館、そして、郭を複数持つ近世の城郭に発展していく。方形居館の呼び方の基準は大変あいまいでどのくらいの規模なら、方形居館となりうるのかは問題である。筆者は一辺が100m以上あり、単郭方形の区画を持つものを方形居館と呼ぶことにする。

従って、ＳＤ２に区画された空間を居館と呼ぶとして、区画内に遺構がまったく存在しなかったことの意味を考えたい。

これに関しては、区画の中央部ではなく、端にあたるため、なかったことも考えられる。または、この方形居館が日常的に人が居住していた空間ではなく、有事の時に立てこもる出城のような役割を果たしていたとも考えられる。

2．近世の遺構・遺物について

三重県内において近世の遺跡で一般的な集落を調査した例は大変少ない。伊勢市の古市遺跡、津市の六大遺跡など数えるほどしかない。

今回この報告をまとめるにあたって、遺構ごとの遺物のカウント、土師器の分類、編年までしたかったが筆者の力量不足で遺物の提示のみになってしまった。

ただ漠然といえるのは、遺構や遺物の出方からみても、ここがなにか特殊な場所ではなく、江戸時代の一般的な村落の様相を呈しているといえよう。

3．近世の土師器の編年についての予察

ｂ期の土師器の鍋、皿に関しては、伊藤編年第４段階に相当する。その後、ｃ期、ｄ期に関しての編年について、若干の予察をしたい。

まずｂ期の皿については、体部が直線的になり、口縁部はわずかに立ちあがる程度で、扁平になり、外側の指押さえも少なくなる。鍋に関しては、口縁部がさらに上方に折り返され、体部が直線的に開くいわゆる焙烙と呼ばれる一群が登場する。従来の南伊勢系鍋はどうやら扁平化してこの焙烙に移行していくと思われる。茶釜のタイプは口縁部がまっすぐ立ちあがるようになる。

ｃ期の皿に関しては器高がさらに扁平化、小型化する。鍋に関しても、さらに扁平化が進む。

当遺跡だけの資料にもとづいているため、さらに他遺跡との検討が必要となろうが、近世の土師器の若干の傾向をあらわしてはいるだろう。

東西方向調査区全景　西から

東西方向調査区全景　東から

図版２

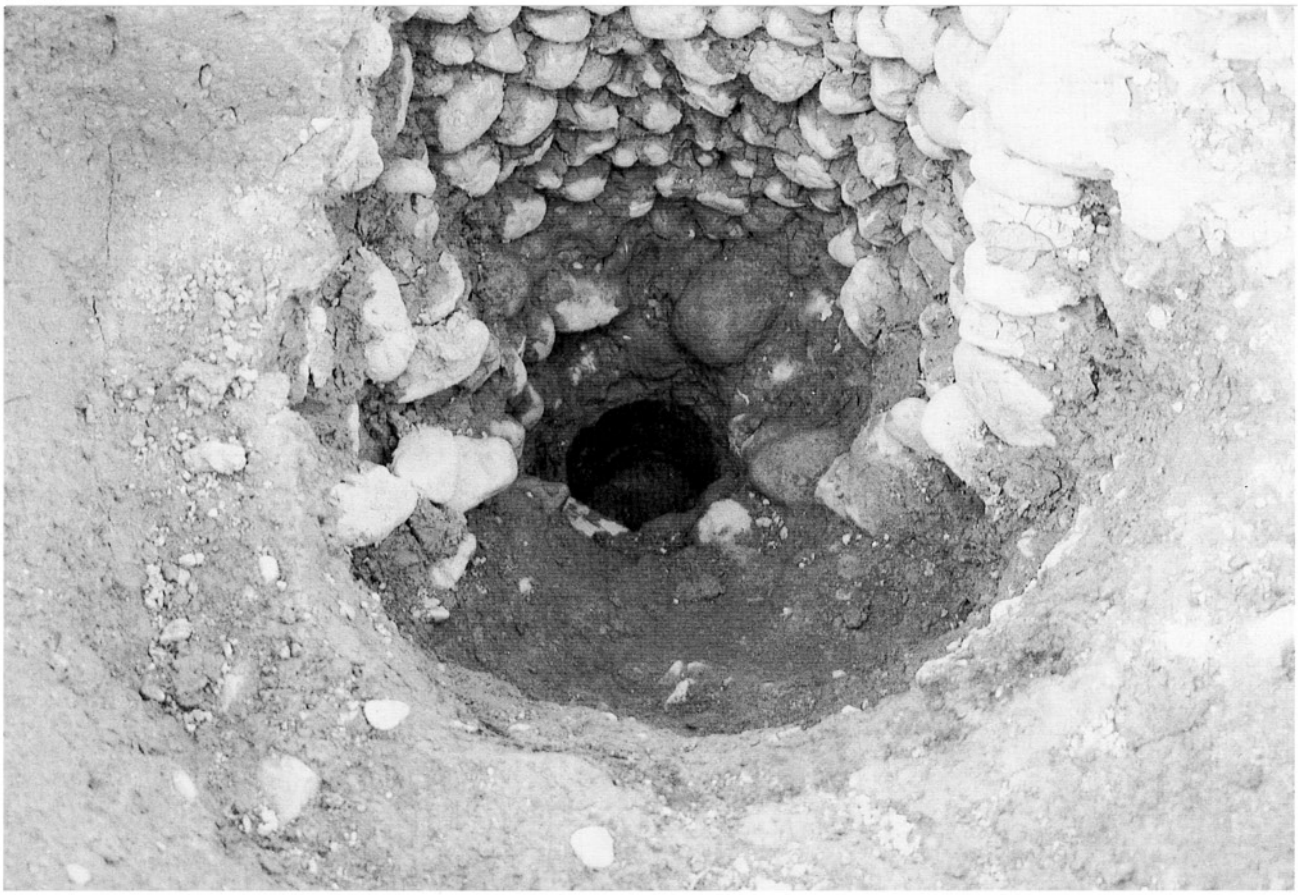
ＳＤ２　北から

南北方向調査区　北から

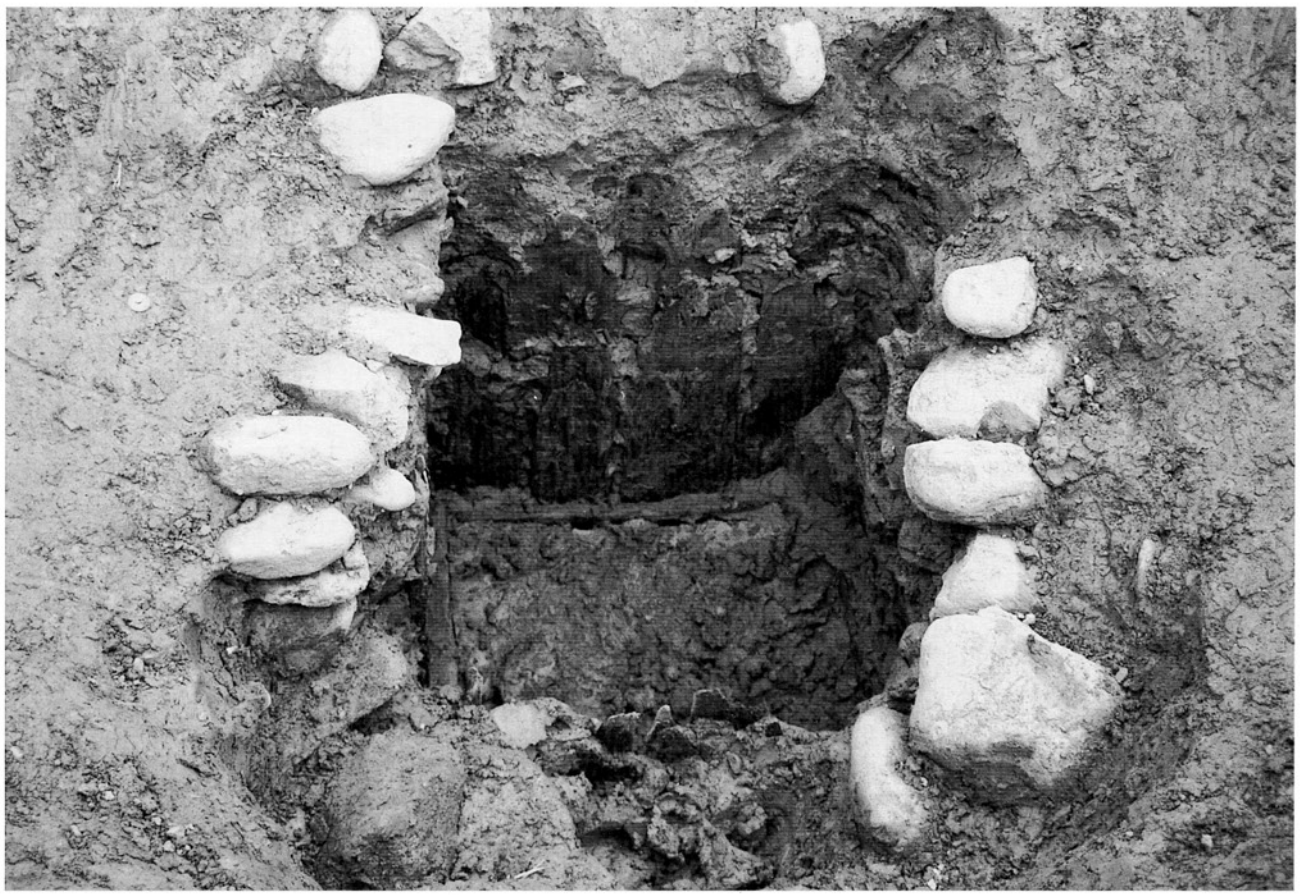
南北方向調査区　南から

ＳＥ12　東から

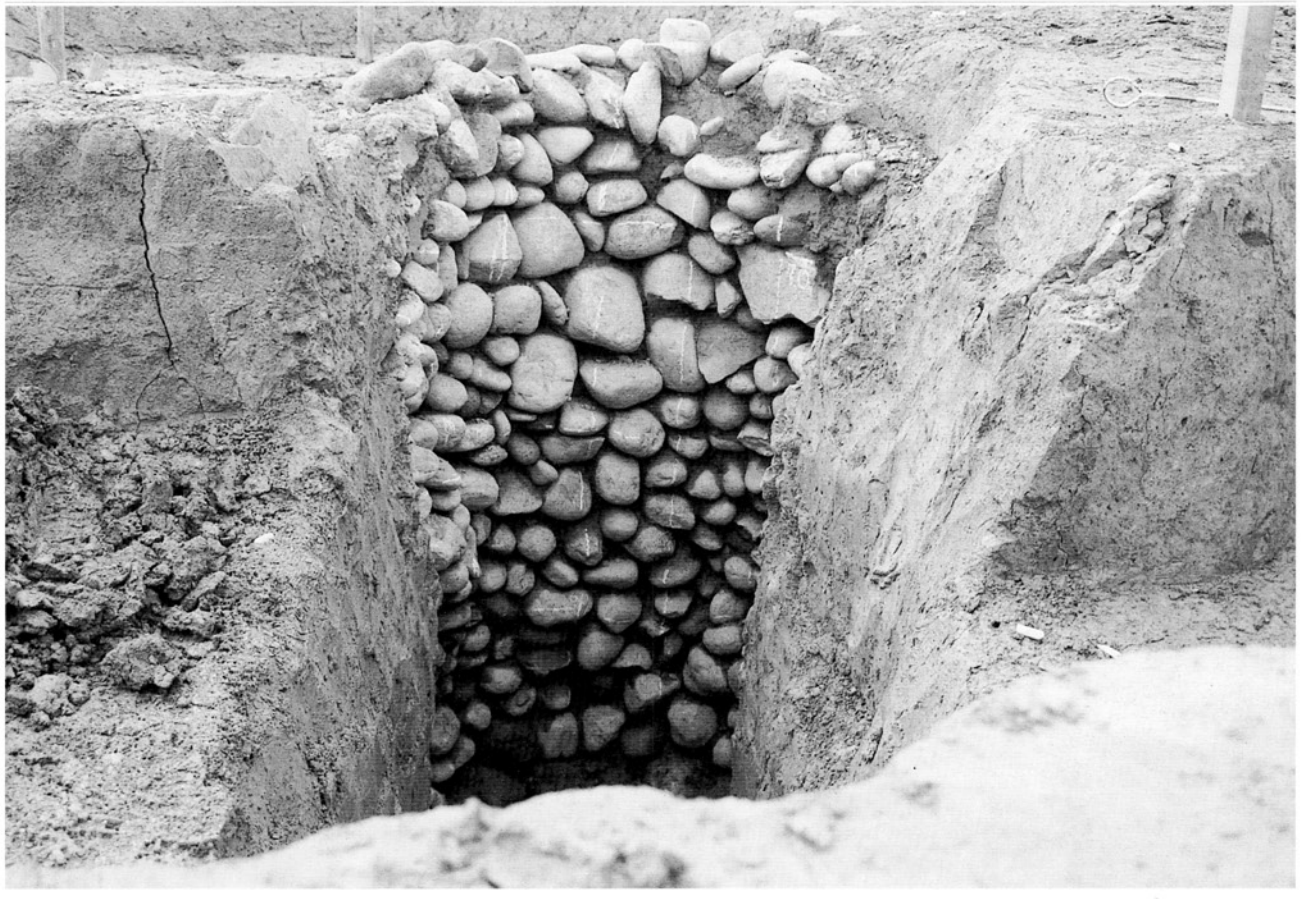
図版４



ＳＥ44　南から



ＳＥ71　西から



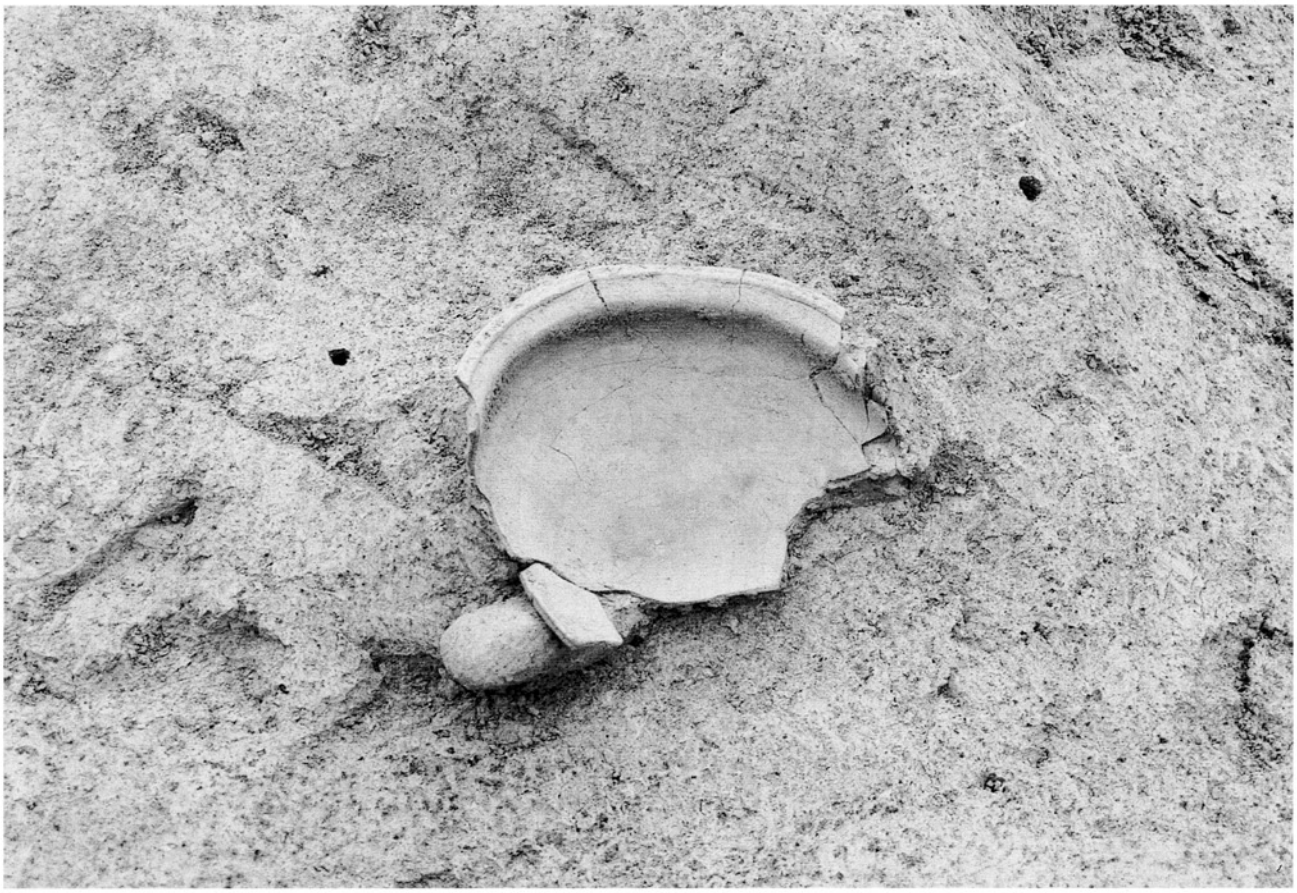
ＳＥ76

ＳＤ69　西から

図版６

ＳＤ83　西から

ＳＫ42　土器出土状況

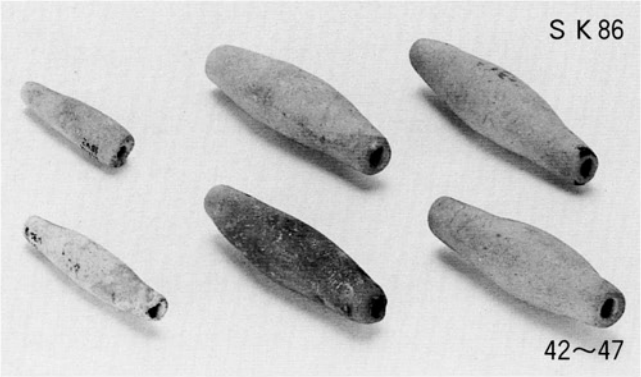


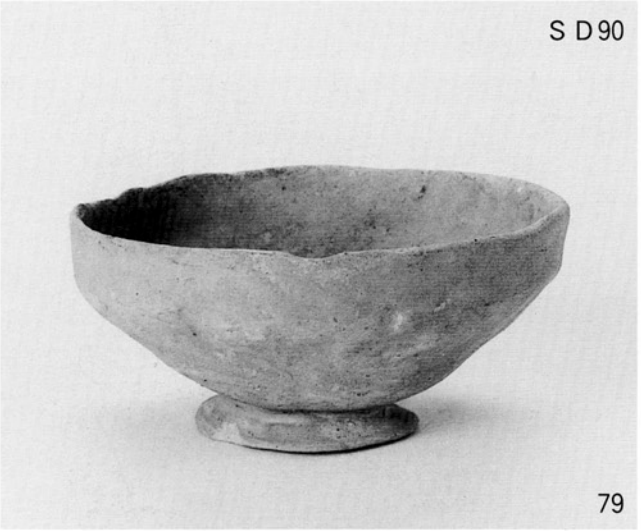
ＳＫ73　土器出土状況　南から

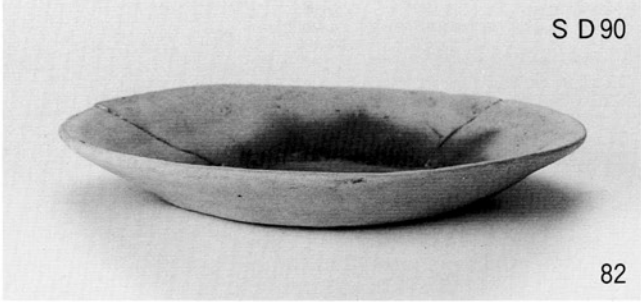
ＳＫ86　下駄出土状況　北から

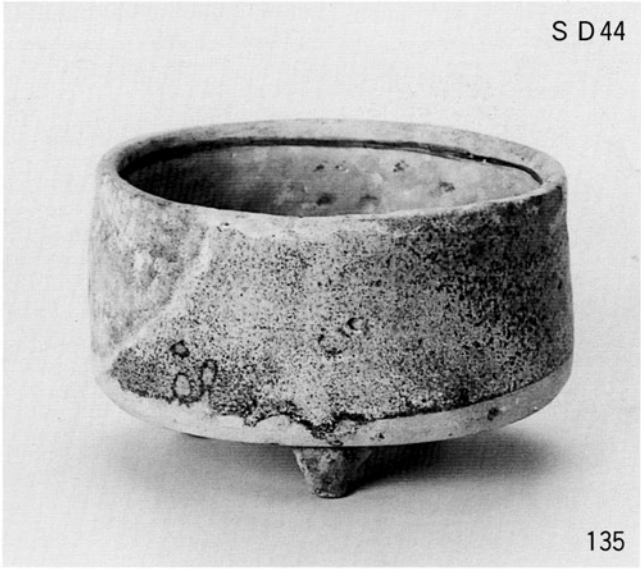
図版８

出土遺物写真（奈良時代）



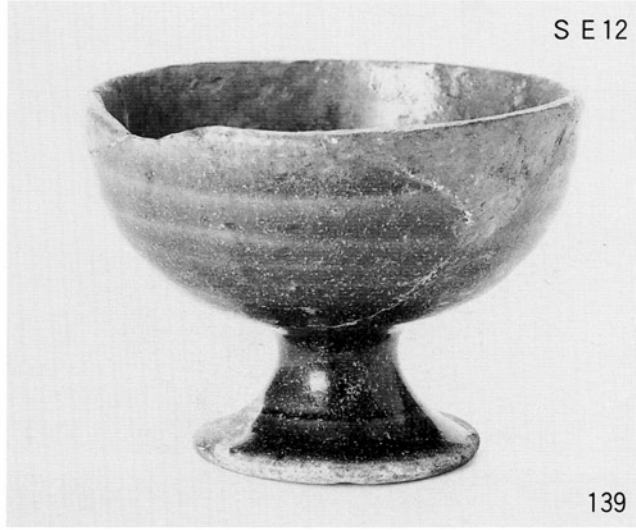


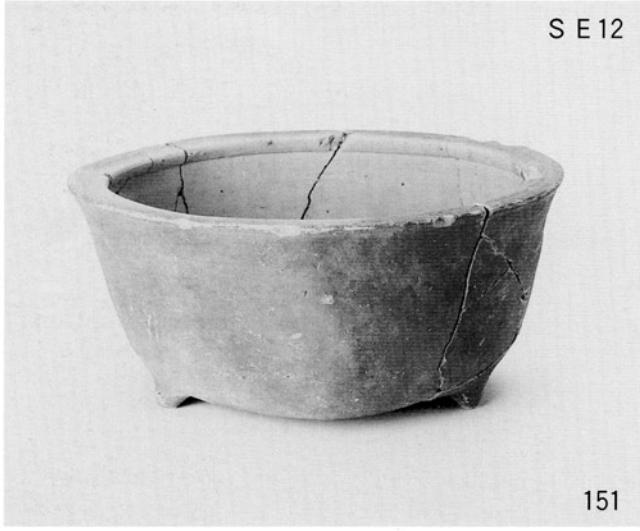




出土遺物写真（奈良・戦国～江戸時代初頭）

図版10

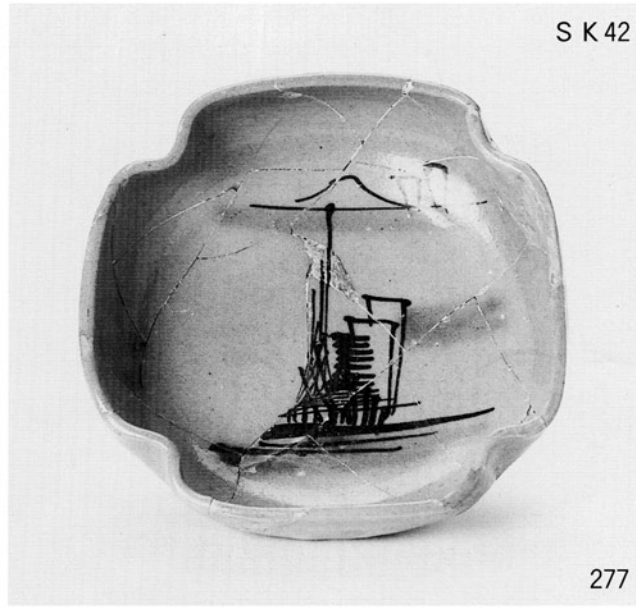


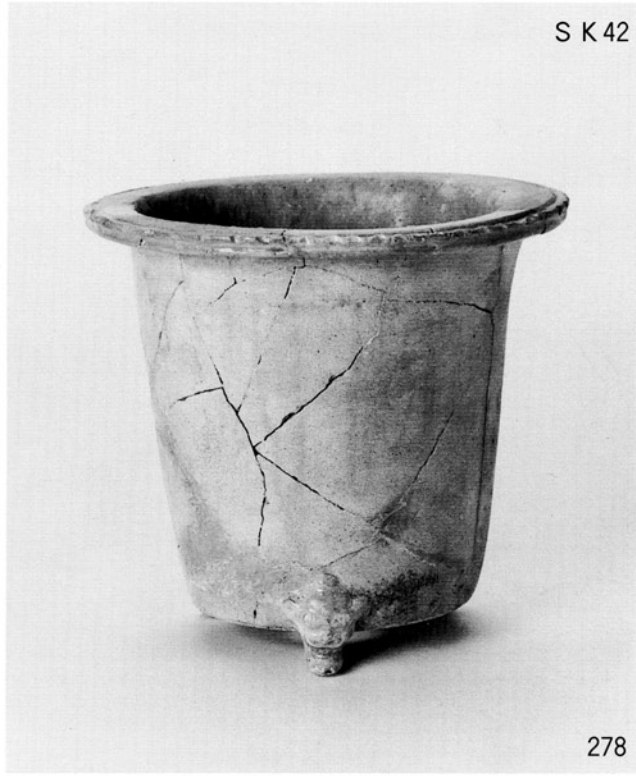


出土遺物写真（江戸時代初頭～中葉）

出土遺物写真（江戸時代初頭～中葉）

図版12





出土遺物写真（江戸時代中葉～後葉）

報告書抄録

ふりがな	くしだちくないいせきぐんはっくつちょうさほうこく
書名	櫛田地区内遺跡群発掘調査報告Ⅱ
副書名	奥ノ垣内地区
巻次	
シリーズ名	三重県埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	146－1－2
編著者名	日栄　智子
編集機関	三重県埋蔵文化財センター
所在地	〒515-03　三重県多気郡明和町竹川503　TEL　0596(52)1732
発行年月日	1997年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積m²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
おくのがいと 奥ノ垣内地区	みえけんまつざかし 三重県松阪市 くしだちょうあざ 櫛田町字 おくのがいと 奥ノ垣内	24204		34° 38' 34"	136° 31' 48"	19961114 ～ 19970116	1,600	県営ほ場整備備事業（櫛田地区）

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
奥ノ垣内地区	集落跡	奈良時代 江戸時代	掘立柱建物 井戸 溝 土坑	須恵器 土師器 陶磁器 木製品	

平成9(1997)年3月に刊行されたものをもとに
平成19(2007)年7月にデジタル化しました。

三重県埋蔵文化財調査報告　146－1－2

櫛田地区内遺跡群発掘調査報告Ⅱ

奥ノ垣内地区

1997.3

編集・発行　三重県埋蔵文化財センター
印刷　㈲第一プリント社